

全船協

会報 159号 2025年8月 夏季号



飛鳥Ⅲ 郵船クルーズ株式会社 提供



一般社団法人 全日本船舶職員協会

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkvo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: info@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575



一般社団法人 日本船長協会

会長 中村紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5(海事センタービル)
電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
URL <http://www.captain.or.jp>



一般社団法人 海洋会

会長 関根 博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6
東京海洋大学越中島キャンパス内
海の研究戦略マネジメント機構越中島オープンラボ棟1階
電話 (03) 6458-8215
FAX (03) 6458-8214
E-mail: honbu@kaiyo-kai.com



一般社団法人 日本船舶機関士協会

会長 庄司 勉

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 池田 潤一郎

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F
電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
<https://www.nikkaibo.or.jp>



日本海事新聞 THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 03-3436-3223 まで
<https://www.jmd.co.jp/>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
購読料 1ヵ月542円(税込・送料別)

お申し込み
お問い合わせ (公財) 日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 明 珍 幸 一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社 ウシオ



代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070
<http://ushio-kk.co.jp>

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目 次

表 紙 … 飛鳥Ⅲ 郵船クルーズ株式会社	
巻 頭 言『2025 乙巳(いっし)の変』	会 長 広 重 康 成 … 2
2025年度 通常総会議事録	事 務 局 … 4
「70歳からの手習い趣味の勧め」	正会員 玉川 宏 … 6
藍青の絆はいつまでも	前広島丸船長 清田 耕司 …10
バリシップ 2025 へ初出展	弓削商船高等専門学校 …14

北から南から

富山高等専門学校	16
鳥羽商船高等専門学校	22
広島商船高等専門学校	33
弓削商船高等専門学校	38
大島商船高等専門学校	46
海技教育機構	52
本部・支部だより	事務局 …55
賛助会員名簿	事務局 …56
会費納入者名簿	事務局 …57
2025年度 新入学入会者名簿	事務局 …58
時事寸評・表紙写真解説・編集後記	事務局 …59

事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては、当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:honbu@zensenkyo.com

ホームページ:<https://www.zensenkyo.com>

◆ 巻頭言 ◆

「2025 乙巳(いっし)の変」

代表理事・会長 広 重 康 成



今年 2025 年は乙巳（きのとみ）の年。西暦 645 年の乙巳（いっし）の変、として有名な中大兄皇子らが蘇我氏を倒したクーデターが

あり、その後の改革を大化の改新と呼ばれています。また、源平の壇ノ浦の合戦も 1185 年の巳年でした。2 度目の元寇 1281 年も巳年。日本海海戦 1905 年も巳年。真珠湾攻撃 1941 年も巳年だったのです。

そんな 2025 年の参議院議員通常選挙が終わりました。投開票日の 7 月 20 日は 3 連休の中日に当たり、投票率が下がるかもしれない、という意見もありましたが、全国平均値で、前回 2022 年の 52.05% が今回は 58.51% と 6% 以上の上昇となりました。

各政党別の投票獲得数を前回 2022 年の参院選と比較してみました。総務省のホームページを開くと詳しく掲載されていますので参考にして頂きたいと思います。

	今回	前回	増減（万票）
自民	1280	1825	▲545
公明	521	618	▲ 97
立民	739	677	62
維新	437	784	▲347

社民	121	104	17
れいわ	387	231	156
共産	286	361	▲ 75
国民	762	315	447
参政	742	176	566

自民・公明・維新のおよそ 900 万票が消えました。一方の国民と参政を合算すると、1000 万票が増えました。3 年前は自民には 1825 万票の投票総数がありましたから比例区 33 人の立候補者の内、19 人が当選しました。しかし今回は 1280 万票しかなくて立候補者 31 人中、12 人の当選に留まりました。

2 か所の合区があり「徳島県と高知県」、「鳥取県と島根県」は「特定枠」というあらかじめ政党が決めた順位に従って当選者が優先的に決まる仕組みが導入された結果、私たちが応援する赤池誠章先生は、残る 10 人の当選者の中には残ることができませんでした。

残念です。誠に残念です。全船協の皆様には多大なるご協力と積極的な支援活動を展開して頂きましたのに、結果を出すことができず、断腸の思いです。

しかし私たち以上に赤池先生は 2 期 12 年間で築き上げられたありとあらゆる実績と、これから進める重要な課題の一つ一つを実現に向けて推し進めるプロセスの途上ただけに、筆舌には尽くし難い思いの中に身を置かれているに違いありません。しかし、まだ 64 歳。更なる飛躍と国政への参加を期

待致します。

赤池先生のご尽力により大島丸がまず誕生し、弓削丸そして鳥羽丸と続きました。富山の若潮丸は既に下関にて建造中です。更に第 5 船目となる広島丸も住友重工追浜造船所にて建造が決まっています。

四面環海の我が国にとって、海運業こそ基幹産業です。少子化になろうとも貿易立国を支える若者達が育たなければ国が成り立ちません。全船協として昨年から 1 年半の長きにわたり、後援会活動を積極的に実施して頂きました関係者の皆々様に厚く御礼を申し上げます。多大なるご協力を賜りましたことに対し、感謝いたします。誠にありがとうございました。



2025 年度通常総会議事録

1. 開催日時 2025 年 6 月 7 日（土） 14 時 00 分～15 時 00 分
2. 開催場所 東京都千代田区一ツ橋二丁目 6-2
一般財団法人 日本教育会館（一ツ橋ホール）会議室 704 号
3. 出席者 総正会員数の議決権の数 1, 3 0 2 名
定足数 6 5 2 名
出席正会員数 3 4 1 名（本人出席 1 3 名、委任状出席 3 2 8 名）
議決権のある出席正会員総数 6 7 1 名（書面表決 3 3 0 名を含む）
実出席理事 8 名
実出席監事 1 名
理事・監事以外の実出席者 4 名

実出席者氏名

- ① 出席理事 広重康成、菅沼延之、中山隆志、徳嶋明宏、田島孝一、師富潤、長谷川徹、水野博之
- ② 出席監事 酒迎和成、
- ③ その他の正会員出席者 望月月正信、飯島寿、相川康明、西山豊久

4. 議長の選出および議事録署名人の選任、定足数の報告

定刻 14 時、司会者に任じられた徳嶋明宏専務理事が開会を宣し、本年度もコロナウイルス等感染防止のため、通知票は委任状若しくは書面表決にて送付願っており、事前了承を依頼した。

続いて定款第 17 条に基づく議長の選出を諮ったところ、正会員水野博之氏より挙手があり、出席者の賛成多数により承認され、水野博之氏が議長に就任した。

水野博之氏が議長席に着き挨拶の後、議長が議事録署名人を選任したい旨を述べたところ立候補者がなく、議長より署名人候補として、田島孝一氏、飯島寿氏の 2 名が推薦され、選任された。

書記には、西山豊久氏を任命した。その後、西山書記から本日の通常総会は定款第 18 条の定足数 652 名を満たしている旨の報告がなされ、議長は本総会が成立した旨を宣した。

5. 物故者への黙祷

徳嶋専務理事より昨年度 2 名の物故者の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

6. 議事に先立ち、広重康成会長から、この一年間の活動を振り返り、5 商船系高専の校内練習船代替建造の状況として、第 4 船の新・若潮丸の起工式が 2025 年 3 月に行われたこと、第 5 船の新・広島丸の船台確保に向けた諸調整が推進されていることなどが報告され、今後も全船協として各方面への働きかけを行っていくとして会員各位の支援をお願いする旨の挨拶がなされた。また、現在全船協が置かれている厳しい状況とそれを乗り越える策を本総会に付議しているので、ご審議を賜りたい旨の挨拶があった。

その後、議案審議に入った。

第 1 号議案 2024 年度事業報告（案）について

第 2 号議案 2024 年度決算（案）について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明することを求め、徳嶋専務理事（事務局より議案説明）から当期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）における事業報告・決算について次の書類をもって説明・報告がなされた。

- ① 貸借対照表 ② 正味財産増減計算書 ③ 事業別正味財産増減(税込・累計)
- ④ 収支計算書 ⑤ 財産目録 ⑥ 財務諸表に対する注記

次いで酒迎和成監事から、当該期における監査報告書が読み上げられ、当該書類が適法に処理され、且つ適正に記載され、また理事の業務執行に関し不正行為または法令および定款に違反する事実がない旨報告がなされた。監査意見として「5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援を行い、今年度は、第3 船新・鳥羽丸の引き渡し、第4 船新・若潮丸の起工式の挙行、第5 船新・広島丸の予算獲得が着実に実を結んでいる点など、今後も継続的に支援をお願いしたい。」と特記された。その後、議長が賛否を議場に諮り、原案通り満場一致で承認可決した。

7. 報告事項

徳嶋専務理事から4月26日開催された理事会の決定事項について、次の報告があった。

- ・2025年度事業計画（案）および2025年度予算（案）
- ・報告事項ではないが、定款第6条第4項に定める「名誉会員」に酒迎和成氏が理事会で推薦されたのでご紹介した。
- ・赤池議員の支援について、各校の支援状況を確認した。

その他として、相川康明氏より「横浜港カッターレース」に関して、「横浜港振興協会」との諸々の取り決めについて、総会終了後に引継ぎしたい旨の話があった。

議長は、これらについて質疑および意見等を求め、特に意見等はなく概ね了承された。

以上をもって議案を終了し、中山隆志副会長より「第5 船となる新・広島丸の今後の進捗状況について説明があり、全船協としてもこれからの船員教育支援の問題には取り組んでいきたいので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」と閉会の挨拶が行われた後、議長は閉会を宣言し、15時00分散会した。

上記の議事の経過およびその結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第22条議事録の定めに従い、議長、出席正会員2名および代表理事がこれに記名押印する。

2025年6月7日

議 長 水 野 博 之 印

議事録署名人
(代表理事) 広 重 康 成 印

議事録署名人
(正 会 員) 田 島 孝 一 印

議事録署名人
(正 会 員) 飯 島 寿 印

70歳からの手習い趣味の勧め

正会員 玉川 宏

2025 年全船協の理事会で、会報誌の原稿依頼をお酒の勢いで、請け負ってしまつて、それ以来忙しさにかまけて『さてさて、どうしようか?』悩みつついたところ督促を受けて、慌てて原稿を作成しております。

そもそも皆様にお話しできる豊富な知識もなく、ましてや商船学校を卒業しても、乗船経験の全くない小職が海運業界を背負ってこられた、諸先輩の皆様に興味をもってもらえる原稿が作成できるのか? 自問自答でした。

少し小職の経歴をご案内させていただきます。1954 年富山県生まれの 70 歳になります。父親が日本海重工業の船舶設計をやっていた関係で、何気なく船に憧れ、世界を股にかける船員（そのころはマドロス）なるものだ、子供のころから疑いもなく考えており必然のように、商船高専に入学して船員を目指しました。

全寮制の環境から遊びばかり覚えて卒業もやつのこと、卒業時にはオイルショックも加わり結果、希望の船会社にも入れず船乗りの夢は立ち消えてしまいました。

当時、流通業界が大店法改正により、地方への出店ラッシュ続いており、当方の富山でも西武百貨店が進出しておりました。新聞で中途採用広告が掲載されており、軽い気持ちで応募したところ、奇跡的に採用されました。そのころの西武百貨店はウディアレンを使った「おいしい生活」等のキャッチコピーで時代の寵児となり、ダイエーと並ぶ日本屈指の流通グループとなっておりました。幸いにも西武富山店で宣伝や販売促進の企画立案を担当させてもらい、今となるとその後の

人生に大きなプラスになったように思います。13 年間勤務した西武百貨店を退職して、ご縁があった富山で第 3 局として開局した『チューリップテレビ』（TBS 系列）でお世話になることとなりました。

入社以来 30 年余りの期間、主に営業や編成、事業を担当させてもらい、東京支社、大阪支社へも勤務することができました。それぞれの場所で仕事とは離れた沢山のネットワークを作れたことも小生の大きな財産となりました。

定年退職を迎えた時点で富山商船同窓会の会長に、前会長から推薦を受けて就任したことは、正直本人は勿論ですが同級生にとっても青天の霹靂だったのではと承知しております。

さて、本題に入りますが取敢えず最近始めた趣味（まだその領域ではありませんが）をご紹介します。いこうかと考えております。

最近というのは、小生の商船学校の 1 年先輩と久々に再会したところ、今はやりの民泊を始めたとのことで、自分の趣味のアウトドア（山菜 溪流つり 鮎漁 きのご狩り キャンプ）を合わせて体験できる、富山ならではのスタイルとのことでした。

どちらかというと海派の小生にとっては「山???」でしたが一度体験してから嵌まってしまいました。

まずは春先の山菜採りを時間差でご紹介しましょう。

山菜採りのイメージは、奥深い山の斜面に這いつくばって探すし、へたをすれば熊と遭遇したりする危ない趣味? そんなイメージかもしれませんが、決してそんなことはあり

ません。街中と言いませんが、道端にも探せば沢山見つかります。代表的な蕨などはゴルフ場（採取しませんが）にも群生しており小生は富山ならではの昆布でめて保存食にしております。日本酒のあてにすると最高です。



「こしあぶら」「ふき」をビール飲みながら選別中



王様(タラの芽)と女王様(こしあぶら)

山菜の王様 たら芽は標準木として自宅の庭で栽培しております。



天然のわさびは清流に群生しており、根っこは必要な分だけ採取します。
春に咲く白い花と葉っぱは煮しめにして少し根っこで香り付けします。



山菜シーズンの最後は「うど」と「ススタケ」（根曲がり竹）です。

ススタケも昆布締め、うどは天ぷらが美味しいですね。

今後連載が続くかどうか不明ですが、続くとすれば次は「鮎つり」「溪流つり」「きのこ祭り」「梅干し大作戦」「庭先果樹酒」「グルメツアー」「干し柿」と続くかも？お付き合い願います。

本日ご紹介したアウトドアアクティブ民泊のお問い合わせは以下にお願いいたします。八尾おわら風の盆の日程がお勧めですが、早めのご予約お願いいたします。

ご紹介のお宿は、
いやし民泊の宿「てっち」 完全予約制

お問合せ／ご予約は

TEL：090-3764-1717 代表 杉山 まで

[メール shanshanhuiju@gmail.com](mailto:shanshanhuiju@gmail.com)

〒939-2302 富山市八尾町杉田 959-2

てつちの宿 ご利用の皆様へ

ご注意とお願い

■ 渓流釣りとお魚取りのお客様へ

ガイド料金の他に1日1人、釣りの[遊漁券料・えさ代金]が必要となります。

※釣りの道具(多少の)貸出し無料。服装(長ぐつ、手袋など)は各自ご準備下さい。

■ キャンプご希望のお客様へ

ガイド料金の他にキャンプ場の[利用料]が必要となります。

※宿には多少の貸出し設備があります。お問合せ下さい。食料は各自でご準備下さい。

資源保護のため、鮎以外の15cm以下の小さな魚はリリース願います。

宿泊されるお客様は、当日の夕食に釣ったお魚を調理(炭火焼き)して楽しみ頂けます。 ※大雨の場合、宿に残りの一部の魚は寄贈願います。

■ 山菜採り、きのこと狩り、木の奥取りガイドご希望のお客様へ

山の資源保護のため、乱獲は謹み、山のルールに則りガイドの注意に努めて下さい！


宿泊されるお客様は、当日の夕食にパーベキューや山菜天婦羅で山菜料理をお楽しみ頂けます。 ※おもて付きは自由ですが、必要以外は宿に寄贈願います。

営業日

宿(日帰りガイド含む)と遊興サロン(カラオケ&麻雀)の営業は、基本的に金・土・日・祝祭日です。 ※予め電話予約が必要です。
※定員が異なりますのでお断りする場合があります。
※平日利用の方は、1ヶ月以上前までの予約確認が必要です。
※定員が少ないので早めの予約や、山菜・きのこなどシーズンや、釣りの禁漁期間があります事をあらかじめご了承ください。電話確認をお願いいたします。

定員

●ご宿泊…5名様まで(家族・グループ) ※おわらシーズンを除く
※相部屋をお願いする場合があります。
●自然体験ガイド等…1日5名様まで
●遊興サロン カラオケ…5名様まで 麻雀…(1卓)4名1組



越中八尾 おわら風の盆

9月1・2・3日(本番)
前夜祭 (本番の1週間前から ※天候により中止の場合があります)
月見のおわら (10月初旬)

おわらの時期は予約が殺到しますので、お断りする事があります。

木の奥取り

柿の実、梅の実、グミ、ピワ、あけび、
山梨、くるみ、銀杏 etc

渓流釣り

岩魚、ヤマメ、アマゴ
(神通川水系、八尾(奥湯田原)水系、白岩・上町川水系)
(常盤寺川水系、喜原川水系 etc)

鮎釣り

(キツネ針による引っ掛け釣り)

野菜作り

(農業体験・花畑作り)

トマト、スナップエンドウ、大根、二十日ダイコン、なす、
かぼちゃ、きゅうり、シシトウ、白菜、かぶ etc

キャンプ

● キャンプ道具と食材持参1名 500円

● 宿の道具と全ておまかせ1名 3,000円

※別途、キャンプ場使用料+ガイド料

牛岳、猿倉山、大長谷、万波高原、樹谷、祖父岳、白木峰 etc

スキー 牛岳温泉スキー場

山登り(トレッキング)

牛岳、夫木山、祖父岳、万波高原(白木峰)、有峰、 etc

ガイド料プラス500円

野鳥、ほたる観察

● 白鳥(11月末、宿近くの水田に飛来) 無料案内

● ほたる(宿の前の神楽川に飛来) 無料案内

※宿近くの徒歩以外は有料(ガイド料金参照)

※諸般の事情により料金が変更となる場合があります。 ※小学生半額、幼児無料

藍青の絆はいつまでも

広島商船高等専門学校（前 練習船広島丸船長）清 田 耕 司

令和 7 年 6 月 14 日（土）にトールシップの会主催の講演会が横浜日本丸メモリアルパークで開催された。

日本が世界に誇る大型帆船「日本丸」の船首像「藍青」をテーマとして、「海よお前が」と「現代っ子帆船に乗る-日本丸処女航海-」の映画プロデューサーである『銭谷 功』さんと、大型帆船「日本丸」「海王丸」の二体の女神像「藍青」と「紺青」を彫り上げられた彫刻家『長澤市郎』さんによる講演会へ広島から参加してきました。

今回は、そこでお目にかかった全日本船舶職員協会 本部事務局の飯島寿様からのお誘いを受けて書かせていただきます。

今回の講演で、銭谷さんにも数十年振りにお会いしましたが、当時の米原一航士も来られていて、直ぐに思い出せない私に「この眼に覚えがないか？」と言われて最敬礼することになりました。

私は、大阪港や神戸港に入港する先代の「日本丸」、「海王丸」にいつか乗りたいと思いながら育ち、大阪から広島商船高等専門学校へ入学し、とても幸運ことに、日本丸が昭和 59（1984）年 9 月 16 日午前、住友重機械工業浦賀造船所で引き渡しを終えた午後に乗船した、日本丸 1 期生の 1 人です。

日本丸もそして、我らの「藍青」もピカピカでした。40 年が過ぎた今も鮮明に覚えています。

翌 9 月 17 日に造船所から日本丸とともに旅立ちました。近くの神社の祭り囃子が聞こえていたのが記憶にあります。

講演された銭谷さんとは、我々が学校の座学中に来校されて面談してから、今に続いて

お付き合いさせていただいています。

「海よお前が」で実習生であった先輩方とも長くお付き合いをされていることも伺っていました。

銭谷さんとは、日本丸の処女航海である、第一回遠洋航海を記録するために、撮影監督として銭谷さん、制作担当田代さんとカメラマンの榊原さん、録音の弦巻さんたちが我々と一緒にハワイ往復の航海に出ました。

ほかに、写真家の中村庸夫さんも同乗されて、撮影されたものをもとに後日写真集「帆船新日本丸：読売新聞社」を発刊されました。これには、文章を田辺穰船長が協力されました。

「藍青」を彫られた長澤市郎さんは、遠洋航海に出る前の俗にドサ回りと言っていた内地航海の途中で乗船されてきたのを覚えています。

ほかに、建造にご支援いただいた方々が便乗されました。初代の日本丸の船長をされていた千葉宗雄船長も乗船されました。当時著書として出版された「練習帆船 日本丸（原書房 1984）」をたまたま乗船前に購入したので、署名をいただきました。

今回の講演で、特筆すべきこととしては、銭谷さん、長澤さんと共に再会した、「藍青」のモデルを務められた新井鷗子さんでした。一期生で講演に参加し、40 年ぶりに再会した富山と大島の同期生とともに、藍青と同じ手を合わせたポーズで記念撮影をさせていただきました。

また、講演には、「船博士ちゃん 中村一朗太君」が最年少で参加されていました。

銭谷さんの講演で私の名前を何度も言われた

ので、休憩の合間に名刺を持ってきてくれました。

1 週間のホノルル滞在中に、銭谷さんたちと Hanauma Bay を訪れた後に、シャワーと着替えをするために、銭谷さん達が宿泊されていたホテルの隣部屋にたまたまチェッカーズのメンバーが映画の撮影で滞在していて、悪戯で廊下に閉め出された、徳永善也（愛称クロベエ）さんが、同い年だったこともあって、たわいもない会話をしばらくできたのは貴重な思い出です。

第一回の航海に向けての記憶を思い出しながら書かせていただきます。

実習生は、86 名が広島、富山、鳥羽、弓削、大島の各商船高専から集まって乗船しました。乗組員は、田辺船長、豊田機関長以下、士官 20 名、甲板部 20 名、機関部 11 名、事務部 14 名と、撮影班として銭谷さん以下 5 名とカメラマンの中村さんでハワイ往復の航海に行きました。

各校で、選抜方法は違っていたと思いますが、私のいた広島商船の A 組では、ある授業の先生の協力？で、黒板全面を使ってあみだくじを作って日本丸と海王丸を決めました。決まった後は、なんとも言えない空気がクラスに漂っていましたが日本丸に決まった方は、静かにしていた記憶があります。

初めて上京する者がほとんどでしたが、宿も決めずに新幹線に乗り込み、東大近くの宿を駅で見つけて泊まりました。折角だからと新宿歌舞伎町へ向かった覚えがあります。

翌朝は、海王丸へ向かう級友と別れて、最初に浦賀の住友重機械工業へと向かい、造船所の艤装岸壁で待つ日本丸に会うことができました。

引き渡しを受けた船内では、夕食を準備される事務部の方々が忙しくされていたのが印象的でした。

午後から乗船式が行われ、いよいよこれからだと気を引き締めるものの、乗船した嬉しさが勝っていたように思います。

翌朝から実習が始まり、館山沖で変則ながら登檣礼の準備をするため、シュラウドに登り、ロアヤードに渡る訓練が始まり、声を掛け合いながらも脚が震える経験をしました。

館山から 9 月 20 日東京晴海埠頭へ着岸し、実習生は散歩上陸となる中、最初のお披露目が行われていたようです。

進水式で支綱切断に臨席された、上皇ご夫妻（当時は皇太子ご夫妻）がお忍びでいらっしゃったこともありました。黒塗りの車が数台ずっと現れたと思ったら、緋毛氈が日本丸まで静かに敷かれ、総員集合が掛かり、実習生の我々は最敬礼のままお迎えしました。進水式前に、田辺船長が帆船についてご教授されたことがあったので、船長が先導されて船内や我々の実習の様子をご見学されました。下船されたところで、シュラウドに登った我々が変則の登檣礼でお見送りしました。

東京を出港後、帆走について最後の JG 検査もあって、相模湾で帆走の訓練を行い、9 月 23 日に初めての Full Sail で航走しました。タッキングも成功させ、意気揚々に次の寄港地である、神戸港へ向かいました。新港第 4 突堤に停泊中に初めての一般公開を行って 2 万人を超える来船者がありました。その後、仙台、青森（練習船としては初入港）、小樽、長崎、鹿児島などや Sail を製造していただいた工場がある沖で仮泊するなど多くの場所でお披露目を行いました。

日時の決まった出入港が多かったのも、船長はじめ乗組員の方々も大変ご苦労されたと今更ながら思います。

クリスマス前に東京へ戻り、できたばかりのディズニールランドから花火が上がるのを沖から見たのも思い出です。

正月明け、1 月 5 日に日本丸へ戻り、1 月

10 日出港、機走で野島南東へ向かい、展帆を開始しました。

古い乗組員が新しい日本丸の性能は凄いという話を聞きながら、1 月 20 日 4 時 22 分に日付変更線を越え、0-4 直は森田二航士がプロペラを回して少しでもスピードを上げるんだ！と当直時間はほぼブレースを引っ張り回していました。



85 年 1 月 31 日 Hawaii まであと少し

2 月 1 日オアフ島北方をランドホール（陸地初認）、2 月 3 日にダイヤモンドヘッド沖を通過しました。

東京からホノルル、4233 海里、所要時間 23 日 21 時 21 分（機走：299 海里、23 時 46 分、帆走 3934 海里、22 日 21 時 35 分）、16.7Kt をマークしました。



Honolulu 出港時の登檣礼

1 週間のホノルル滞在中もたくさんの経験をしました。1 ドルが 270 円だったので、洋酒は安く手に入った覚えがありますが、次の青雲丸では、240 円になって多くのお土産を買えた覚えがあります。

ホノルル出港後にいきなり、天候が悪くなり、大荒れの中、大慌てで畳帆作業についたことも懐かしい思い出です。

その後は、穏やかな航海を続け、グアム島を回った後、火山列島を見ながら北上しました。



復航時、端艇操練でのショット

進水式からほぼ 1 年が経過していたことから、本来であれば 1 年ごとに行う、マスト塗装や、タール塗りも経験することができました。

3 月 12 日に今は更地になってしまった、船の科学館の前にあった有明岸壁へ着岸しました。

安着パーティーも賑やかであちこちで乾杯したことが懐かしいです。

3 月 18 日に下船式があり、日本丸を去ることになりました。当時は、青雲丸、銀河丸、大成丸に別れたと思います。

あれから、40 年が過ぎましたが、他に代えがたい日本丸での経験が今に生きています。そして、多くの先輩諸兄からのご支援を受けてここまで来ました。

現在は、瀬戸内の大崎上島で、船乗りを目指す青年たちの夢前案内人の1人としてもうしばらく取り組んで行きたいと思います。とりとめも無い文章で申し訳ありませんでした。

※ 画像として、日本丸乗船時に撮影した数点と広島丸船長時代に、広島港帆船フェスタで日本丸と並んで着岸した際のスナップを送らせていただきます。



筆者:2024 年 12 月 5 日 NHK 中継の際撮影



広島丸船長時、広島港帆船フェスタでのひとコマ



広島丸船長時、広島港フェスタ イルミネーション



弓削商船高等専門学校バリシップ 2025

教育機関として初出展！

練習船「弓削丸」一般公開

1. はじめに

2025年5月22日(水)から24日(土)まで今治市で開催された国際海事展「バリシップ 2025」において、弓削商船高等専門学校が教育機関として初めて出展し、大きな注目を集めました。この画期的な出展は、同窓会の強力な進言がきっかけとなり実現しました。

2. 出展までの経緯と「弓削丸」の一般公開

バリシップ 2025 への出展は、同窓会からの熱心な進言が発端となりました。2024年5月には、柏木会長がバリシップ主催者であるインフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社のクリストファー・イブ代表取締役社長に直接出展を打診し、さらに弓削商船高専の校長を説得するなど、多大な尽力がありました。

教育機関として初の試みでしたが、この進言と尽力により学校は出展を決定。そして、令和6年3月に竣工したばかりの第四世練習船「弓削丸」を今治港第1棧橋に接岸し、一般公開するという、目玉となる企画も実現しました。この「弓削丸」の一般公開は、今治市産業振興課海事都市推進室の要望とも一致し、海事都市今治の活性化に貢献しました。最新鋭の設備を備えた練習船を間近で見学できる貴重な機会として、多くの来場者が訪れ、学生たちが誇らしげに来場者を案内する姿が見られました。

3. 多彩な出展内容で魅力を発信！

本校はAゾーン テクスポート今治 2F の A2-12 の位置において展示を行いました。学校の教育内容や学生たちの研究・開発の取り組みを積極的に紹介しました。具体的には、以下の内容が展示されました。



□学校概要と学科紹介：弓削商船高等専門学校の歴史、教育理念、そして商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3つの学科それぞれの特色やカリキュラムについて、パネルや映像で詳しく解説されました。



□工業系技術の紹介:

・3D プリンティング:

練習船弓削丸の模型を3Dプリンターで製作し、展示しました。

・カプセルトイ:

船や海にちなんだ景品が入ったカプセルトイを設置し、来場者の関心を引きました。



□練習船「弓削丸」の新機能:教育と災害支援の融合

・船上カメラ映像と自動運航データ共有システム:

練習船からのカメラ映像を陸上で取得し、校内の学生もリアルタイムで授業中に確認できるシステムを紹介しました。また、船上の各種データを陸上で取得し、校内の学生用ECDIS(電子海図情報表示装置)端末でリアルタイムに表示するシステムも展示しました。これにより、練習船と学校が融合した新たな教育環境が構築されています。

・災害時の防災船上局化: 災害時に陸上の携帯電話基地局が不通になった際、船上の衛星アンテナを介して船から陸上に向けて携帯電話の電波を提供し、災害地の通信環境を維持する取り組みを紹介しました。これは、地域に貢献する災害支援機能として期待されています。

□進路・就職支援の紹介: 商船学科の卒業生が3級海技士として世界の海で活躍する様子や、工業系2学科の就職率100%の実績、国立大学や専攻科への進学状況など、卒業後の幅広い活躍の場を紹介しました。

□体験コーナー: VRシミュレータによる操船体験、また、VRゴーグルによる弓削丸の船内探索や弓削島の上空の散策などが行われ、海事や工業に関する新たな技術を体験できる機会を提供しました。



4. おわりに

今回のバリシップ2025への出展は、海事都市・今治における地域密着型イベントとしてのバリシップのコンセプトに完全に合致し、弓削商船高等専門学校が地域社会に深く根ざし、その発展に貢献していることを改めて示すものとなりました。バリシップ2025には3日間で合計18,785名(出展社を含む)もの参加があり、そのうち5月22日(木)は7,383名、5月23日(金)は5,790名、そして最終日5月24日(土)には5,612名(うち一般来場者4,923名)が来場しました。このような大規模なイベントにおいて、弓削商船高専の出展は、未来を担う若者たちが海事産業に関心を持ち、次世代のプロフェッショナルを目指すきっかけ作りに大きく貢献しました。



富山高等専門学校

令和7年4月3日(木)に入学式が挙行され、本校の今年度の行事がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の脅威がなくなったわけではありませんが、富山高専での学校行事についてはコロナ前とほぼ同じような実施状況に戻すことができるようになったと感じています。教職員・学生ともに各々が実施できる感染対策を今後も実施していくことで健康で充実した学校生活を続けていくことを心がけてまいります。

以下におきまして令和7年度のこれまでの本校での取り組みをご報告させていただきます。

○令和7年度入学式を挙行

令和7年度入学式が令和7年4月3日(木)に富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)にて挙行されました。厳かな雰囲気の中での入学式において、國枝校長が入学者の名前を一人ずつ読み上げられ、入学の許可が宣言されました。新入生代表の学生からは入学やこれからの学校生活にむけての力強い誓いの言葉が述べられました。入学式での新入生の様子を見ると多くが緊張の面持ちであるとともに、今後の学校生活に期待と希望を抱いている様子が伺えました。入学式後は学科ごとに会場を分け、新入生の保護者と担任や学科長等の先生と懇談会を実施する機会が設けられました。

令和7年度4月入学者は以下の通りです。

<学科新入生>

機械システム工学科	42名
電気制御システム工学科	41名
物質化学工学科	40名

電子情報工学科	42名
国際ビジネス工学科	43名
商船学科	41名
計	249名

<編入学留学生(学科3年次へ)>

機械システム工学科	1名
電気制御システム工学科	1名
物質化学工学科	1名
計	3名

<専攻科>

エコデザイン工学専攻	21名
制御情報システム工学専攻	10名
国際ビジネス学専攻	4名
海事システム工学専攻	海洋資源環境学連携
教育プログラム	2名
計	37名



1. 入学式の会場の様子(新入生)



2. 入学式の会場の様子（壇上）

○商船学科1年生の練習船「若潮丸」における初めての乗船実習

4月22日（火）～23日（水）の一泊二日で商船学科1年生には初めてとなる練習船「若潮丸」での乗船実習が行われました。例年であれば商船学科1年生の乗船実習は学校に慣れてきた6月頃の実施となっているのですが、今年度は若潮丸の代船建造スケジュールの関係から前期で2回の乗船実習を行う都合上早い時期での実施となりました。

実習初日に本校からバスで移動し、学生たちは若潮丸に乗船しました。オープンキャンパスなどの機会に若潮丸に乗船したことのない学生にとってはこれが練習船への初めての乗船となりました。



3. 練習船「若潮丸」での実習の様子(1)



4. 練習船「若潮丸」での実習の様子(2)



5. 「若潮丸」の停泊する岸壁での実習の様子

乗船実習では4班に分かれて様々な実習を行っていきました。今年度については早い時期での乗船実習のため例年よりも学校で座学ができた期間が短く、1年生にとっては実習で経験するほとんどのことが新しく覚える必要があるものばかりだったと思います。この乗船実習での経験を座学で学ぶときに活かし、今後の座学で学んだことを次の乗船実習で活かすという良い循環を構築できることを期待しています。

天候にも恵まれ、今回の乗船実習では出航を行うことができ、富山湾を航行しての実習も行われました。入出港の手順や航海中の操舵など、船の実際の動かし方の全容について学生は初めてみるようになったと思います。この1年生たちが5年生になる頃には学生たちだけで練習船を操ることができるようになることが求められます。その第一歩が今回の乗船実習で踏み出せたのではないかと思います。

○保護者による授業参観を実施

4月25日（金）、射水キャンパスでは例年と同様に、保護者による授業参観を行いました。この授業参観の機会は保護者の方が富山高専での授業風景を見学し、学生が学校でどのように授業を受けて生活しているかを見ることができる貴重な機会となっています。クラスによっては実験の授業を見学することになった保護者の方もおり、学生が実験する様子を熱心に見ておられました。また、商船学科の学年によっては臨海実習場で実施されている実習が授業参観の対象となっており、こちらについては保護者の方に臨海実習場へ来ていただき、実習設備等を知っていただく機会にもなったかと思います。

○学校説明会を開催

6月1日（日）に本郷キャンパスと射水キャンパス両方で、午前の部と午後の部に分けての学校説明会を実施しました。この学校説明会では中学生とその保護者をキャンパスに招き、本校の概要を説明する貴重な機会としています。射水キャンパス側では学校概要の説明後に学生活動や学生寮についての説明が行われました。その後は各学科の説明を学科長が行い、各学科の代表学生が学校での生活について紹介する機会もありました。最後に希望者を対象に校内見学会を実施し、普段学生が使用する教室や専門の授業を行う実習室などの設備について中学生や保護者に直接紹介できる機会を設けることができました。

（教務主事補 商船学科 清野義敬）

<学生会活動 + α>

○新入生研修を実施

5月8日（木）に射水キャンパス・本郷キャンパスの新入生が合同で交流研修を実施しました。ネットモラル講習会、図書館情報センター講習会、レクリエーション企画に加え、ビーチバレー大会も行いました。準備や後片付けを含めた運営も学生全員が率先して行い、キャンパス・学科の壁を越えて友達と協力して活動することを通して、キャンパス相互の絆を強くし友情を深める機会となりました。



1 枚目：校長挨拶、2 枚目： ネットモラル講習会

○海外クルーズ客船乗客に海王丸案内ツアーを実施

5月9日（金）に、クルーズ客船「アザマラ・パシュート」の射水市・海王岸壁寄港に合わせ、訪れた外国人乗客に対し、学生8名が英語で海王丸内部の案内ツアーを実施しました。射水市からの提案を受けてボランティアとして参加した学生らは、事前に海王丸を見学したり、PR用のチラシを作成したりして準備を進めてきました。当日は、英語での案内を通じて、計35名の外国人乗客と積極的に交流しました。



3 枚目：海王丸とアザマラ・パシュート号, 4 枚目：第一教室の説明中, 5 枚目：メインマストの説明中

○銀河丸&海王丸見学会を開催

5月11日（日）に、大型練習船“銀河丸”&帆船“海王丸”見学会を実施しました。銀河丸の伏木富山港寄港に際し、海技教育機構の協力のもと見学会の開催が実現しました。当日は県内の小中学生及び保護者、教職員を含め20名が参加し、銀河丸では、船長をはじめ船員の皆様による船内案内のほか、普段見ることができない主機クランクケース内部も見学させて頂きました。海王丸では、國枝校長による講義の後に船内を見学したほか、参加者を対象に、もやい結びを使ったペーパーバッグの作成体験も実施しました。



6 枚目：銀河丸船橋見学, 7 枚目：海王丸船橋見学

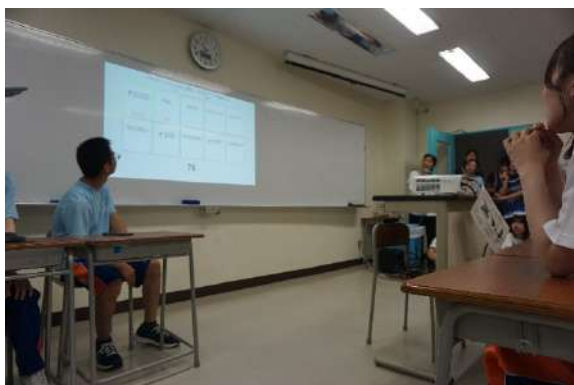
○熱中症対策講座を開催

6月18日（水）に熱中症対策講座を開催しました。本校学校薬剤師の先生を講師に迎え、熱中症の原因と症状、熱中症になった時の対処法などを学びました。各クラブ・同好会の代表学生らが受講しました。

○プチ運動会を実施

7月3日（木）に行われる予定だったカッターレース大会は、本校練習船若潮丸の代船建造に伴う岸壁工事の関係で中止となったため、学生会が中心となって企画した代替イベント『富山高専プチ運動会』を実施しました。大縄跳びや台風の目、障害物リレーといった体を動かす競技やクラス対抗のクイズ大会を行い、学生がリフレッシュする機会となりました。





8 枚目：台風の日、9 枚目：クイズ大会、10 枚目：好タイム！、11 枚目：障害物リレー

< 課外活動 >

○北陸地区高等専門学校体育大会

6 月下旬から 7 月上旬にかけて北陸三県を会場に、北陸地区高専体育大会が開催されました。射水キャンパスからは、陸上・バスケットボール・バレーボール・テニス・野球・卓球・バドミントン・水泳・剣道・柔道が出場しました。

(学生主事補 商船学科 福留研一)

「北斗会便り」

【北斗会理事会・総会・懇親会の開催】

6 月 7 日（土）、富山電気ビルレストランで令和 7 年度北斗会理事会・総会・懇親会を開催しました。

今年度は例年より多くの理事が参集し、新練習船の竣工に向けた式典の協力等について、時には白熱した意見交換が行われました。

続く総会では、富山高等専門学校長 國枝佳明様をご来賓にお迎えしました。議事も滞りなく進行しました。

その後開催された懇親会では、富山の旬を盛り込んだお料理がテーブルを彩りました。懐かしい顔ぶれに話に花が咲き、大いに盛り上がりました。

今年も初参加の 20 代、40 代の方がいらっしやいました。これからもタイミングが合えばぜひ会員の皆様のご参加を賜りたいと思います。



理事会での玉川会長挨拶



総会の様子



懇親会の様子①



懇親会の様子②

【関西支部 神戸港カッターレース大会出場】

2025年5月11日(日)「第47回神戸港カッターレース」が開催されました。

本年も企業チームや学生チームなど出場チームが多く、応援も賑やかでした。

富山商船OB・OGチームはタイムレースで惜しくも決勝には進めませんでしたが、各地から集まった元カッター部員が全力を出し切りました。

レース後は慰労会が開催され、こちらもレース同様大いに盛り上がりました。



北斗会事務局 中前 薫 記

鳥羽商船高等専門学校

第2回情報機械システム工学科卒業証書および第19回専攻科生産システム工学専攻修了証書授与式を挙行了しました。

令和7年3月19日（水）鳥羽商船高等専門学校は第2回情報機械システム工学科卒業証書および第19回専攻科生産システム工学専攻修了証書授与式を挙行了しました。今回の式では、古山雄一校長が情報機械システム工学科卒業生71名に卒業証書を、専攻科生産システム工学専攻修了生10名に修了証・学位記を手渡したあと、本校を巣立つ卒業生と修了生に向けて言葉を述べました。

卒業生代表である情報機械システム工学科5年生 濱口祐志さんは「これまでの5年間はあっという間で、新型コロナウイルスの影響を受けて思い描いた高専生活のスタートは切ることができませんでした。しかし、先生からのサポートや仲間との交流を通じて一步步に進むことができました。協調性や主体性を学び、経験を通して課題を乗り越える力を身に付け、人として大きく成長できたと感じています。ここで学んだことを自らの糧として、最後まで諦めず精一杯挑戦します」と答辞を述べました。

式の後、卒業生・修了生は、後輩、家族、教員らと記念写真を撮影したり、思い出を語ったりして巣立ちの日を喜ぶ様子が見られました。



赤池誠章参議院議員、吉川ゆうみ参議院議員、谷口功高専理事長が商船学科を視察されました。

令和7年3月15日（土）、赤池誠章参議院議員、吉川ゆうみ参議院議員、谷口功 国立高等専門学校機構理事長が鳥羽商船高等専門学校の商船学科を視察されました。

本校商船学科長の窪田祥朗教授と商船学科教員の鎌田功一准教授が案内役を務め、本校に新しく設置された遠隔操船システム（学校側）や操船シミュレータをご覧いただきました。

最新の技術である遠隔操船システムや練習船として初めて取り入れられた自律運航システムの概要を視察された赤池議員は「すばらしいシステムが取り入れられたことを改めて認識しました。このような最先端の技術をここで学べることは、航海士や機関士を目指す学生にとって非常に大きな利点でしょう」と話されました。

操船シミュレータ室では、シミュレータでの操船を実際に体験していただきました。操船体験後、吉川議員は「自動車とは異なり、すぐには船の向きを変えることができず、操船の感覚は難しいと思いました。景色も実際の船に乗っている感じが伝わり、とても興味深いシミュレータですね。船に乗っていないくても、このようなシミュレータで経験することができるのは学生にとって重要ですね」と話されました。

最後に、本校教員との意見交換が行われ、「将来、海運で活躍する学生を育てる環境は時代に合わせてどんどん更新されている。島国である日本にとって海運は重要な産業で、これを支える技術者はこれからも欠かせない」、「幼いときから海、船などに興味を持ってもらえるよう幅広くアピールしていきましょう。練習船は実際に見る、触る、話を聞くことで魅力がたくさん伝わってくる。学生の実習や研究だけでなく、新しい練習船を活用した広報も支援していきたい」といった意見をいただきました。



金城泰邦文部科学大臣政務官、鈴木英敬衆議院議員、赤池誠章参議院議員、谷口功高専機構理事長らが情報機械システム工学科を視察されました。

令和7年3月15日(土)、金城泰邦文部科学大臣政務官、鈴木英敬衆議院議員、赤池誠章参議院議員、谷口功高専機構理事長らが鳥羽商船高等専門学校情報機械システム工学科を視察されました。

情報機械システム工学科長の北原司教授が案内役を務め、本校が開発を進めてきた海洋観測機器うみログ、藻場観測機、インバウンド対応清掃支援アプリ Triplean、イノシシ検出 AI 等をご覧いただきました。

視察された鈴木議員からは「鳥羽商船高専は地

域課題に対する解決能力が高く、デジタル技術を使って色々なことに取り組んでいる。観測機器は実際に養殖業に役立っており、その成果がこういったコンテストの結果にも表れている。これからも地域に貢献していくものづくりが生まれていくことに大きく期待している。こういう取り組みから鳥羽・伊勢志摩地域を盛り上げていきましょう」という励ましの言葉をいただきました。



鳥羽・伊勢・志摩地域を対象とした新しい練習船鳥羽丸の見学会を実施しました。

令和7年3月29日(土)、鳥羽商船高等専門学校において、鳥羽・伊勢・志摩地域を対象とした新しい練習船鳥羽丸の見学会が実施され、本校関係者と約120名の地元住民が参加しました。

新しい練習船鳥羽丸は本校が31年ぶりに新造した練習船で、令和7年3月14日に竣工しました。SMART-Ship(最先端の賢い船)、TRUST-Ship(海事教育に頼れる船)、FRIEND-Ship(親しみやすい船)という3つのコンセプトを掲げてデザインされ、自律航行システムや遠隔操船システムを搭載したことから、学生は最新の知識・技術を新しい練習船鳥羽丸から学ぶことができるようになりました。さらに、電力・水・物資補給能力や船舶型携帯電話基地局を持たせ、船内設備・居住スペースを多様に使用できるよう工夫したことにより、災害時の支援船としても活用できるようになりました。

そのため、より地域に貢献できる練習船になったことを地元住民に知ってもらうことを目的とし、今回の見学会が企画・実施されました。

参加者からは「エンジンが大きくてすごいと思った」、「設備が整っていて、何かあったときに助けになる良い船だと思った」といった感想が述べられました。



令和7年度新入生オリエンテーションを実施しました。

令和7年4月18日(金)、鳥羽商船高等専門学校は令和7年度新入生オリエンテーションを実施し、本科1年生全員と教職員が参加しました。

新入生オリエンテーションは、1年生が高専生としての自覚を持ち、グループワークを通じて他者とのコミュニケーション能力や集団行動できる能力を身に付け、新しい友人をつくることができるようにすることを目的とし、毎年実施されています。

開会式では、古山雄一校長が「夢に向かって努力してください。皆さんが考えている以上に時間はあっという間に過ぎていきます。貴重な高専生活を充実したものにしてください」と挨拶を述べました。

スクールカウンセラーの宗田美名子さんから講評が述べられ、「皆さん、今日は疲れたでしょう。なぜなら、コミュニケーションを取るというのは非常に難しいことだからです。皆さんは、今日一日を通してコミュニケーションを取り続け、最後までやり遂げました。素晴らしいことです。互いに労ってください」と学生に声を掛けました。

DCON2025 経済産業大臣賞と企業賞（アクセスネット賞・三菱電機エンジニアリング賞・ビズリーチ賞）を受賞しました。

令和7年5月9日～10日、渋谷ヒカリエホールにおいて行われた第6回高等専門学校ディープラーニングコンテスト2025（以下、DCON2025）本選において、鳥羽商船高等専門学校 情報機械システム工学科に所属する学生チーム ezaki-lab が経済産業大臣賞および企業賞（アクセスネット賞・三菱電機エンジニアリング賞・ビズリーチ賞）を受賞しました。

鳥羽商船高専の ezaki-lab が制作・発表したのは、海苔養殖を食害から守るためのシステム「めたましーど」です。めたましーどは、音とレーザーを活用して食害の要因になっているカモを追い払うシステムで、近年減産し続けている海苔養殖の生産量を向上させることができる転換点に寄与できると期待されているものです。地元・伊勢湾漁協や鳥羽磯部漁協の海苔養殖生産者とともに海苔養殖現場に通いながらシステムを開発し、今コンテストでメンターを務めた

connectome.design 株式会社の佐藤聡氏からアドバイスを受けながら事業化に向けた取り組みも進めてきました。

今後、学生チーム ezaki-lab は三重県内で実証

実験を積み重ね、製品化を目指して取り組んでいく予定です。



乗船体験を終えた児童は「船の仕事はとてもかっこよかった。小学校の近くにこんなに大きくてすごい船があることを初めて知った。家に帰ったら、家族に船のおもしろかったところを伝えたい」と笑顔で話しました。



J-CREW プロジェクト主催「海の仕事を知ろう！小学生乗船体験 2025」を実施しました。

令和7年5月21日、鳥羽商船高等専門学校はJ-CREWプロジェクトが主催する「海の仕事を知ろう！小学生乗船体験 2025」を実施しました。

今回、乗船体験に参加したのは、鳥羽市立鳥羽小学校5年生30人です。児童たちはまず、練習船鳥羽丸の教室にて国際船員労務協会の寺西尚平事務局次長と全日本海員組合の土屋文平外航副部長から船員の仕事について話を聞きました。続いて、児童は操舵室や機関室を見学し、練習船鳥羽丸の船員から直接船や船員の説明を受けました。

操舵室では、船長の仕事として、双眼鏡を使って海に危険物等がないか確認する作業や、船の進行方向を変えるため操舵する仕事を体験しました。児童は「双眼鏡で遠くにある陸地の建物がよく見えた。おもしろかった」、「操舵はとてもおもしろかった。またやってみたい」と笑顔で話しました。

機関室では、児童は機関長や一等機関士から仕事の話を聞いたあと、実際にエンジンルームを見学しました。航海中のエンジンルームでは、大きなエンジンの動く大きな音や振動に驚く児童もいました。また、航海中に部品を修理・製作するための工作室も見学し、児童は「こんなに広い部屋があるとは知らなかった。

ここで部品を作れることに驚いた。すごいと思った」と話しました。



神島小中学校が鳥羽商船高専で一日高専体験しました。

令和7年5月22日（木）、鳥羽商船高専は「一日高専体験」を実施し、神島小中学校の児童・生徒6名が参加しました。三重県鳥羽市は、伊勢湾に面した自然豊かな立地を活用し、独自の海洋教育カリキュラムを実施しています。今回の一日高専体験は、神島小中学校からの要望を受けて実現したもので、神島から普段見ることのできる大型船の役割やそれを支える技術者のことを直接知ってもらうことを目的に実施されました。

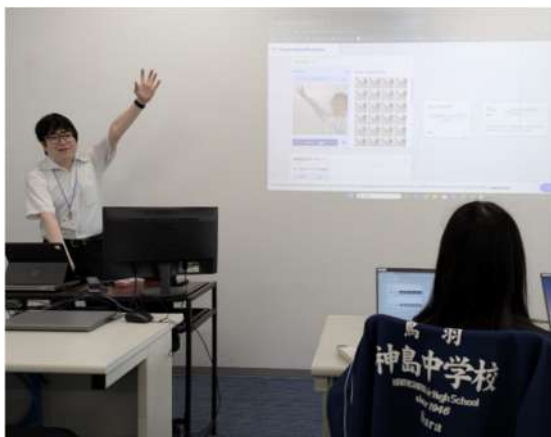
まず、児童・生徒は商船学科において「ものはこび」を学ぶ高専生の授業を体験しました。練習船鳥羽丸に乗船し、船内教室で神島から見ることのできる船はどんなものを運んでいるのか、どんな技術者が乗船しているのかをクイズ形式で学びました。その後、児童・生徒は航海士の仕事を学ぶため、船橋に移動し、双眼鏡を使って海況を確認したり、操舵体験を行いました。また、機関士の仕事を学ぶため、機関制御室に移動し、機関長から機関士の肩章についてどんな由来があるのかを教えてもらったり、エンジンルームを見学しました。さらに様々な機器の整備に欠かせない研磨作業を行い、号鐘を磨く体験をしました。商船学科を体験した児童は「すごくおもしろかった。カッコいいと思った」、生徒は「何度も船に乗ったことはあるし、いつも船を見ているけれど、今日はいつもとは異なる船を知ることができた。船の見方が変わった」と笑顔で話しました。

次に、児童・生徒は情報機械システム工学科において「ものづくり」を学ぶ高専生の授業を体験し、児童はロボット操縦を、生徒は画像認識システムを体験しました。ロボット操縦では、いくつかのプログラムが設定されているものを用いました。児童は、定められたコースに沿ってロボットを動かすため、どんなプログラムを設定すればいいのか、どのような方向で何秒動けばいいのか等を考えながら、プログラムを組み立て、何度も試行していました。ロボットをゴールまで動かすことができた児童は「ゴールさせることができて嬉しかった。もっと色々なコースに挑戦してみたい。とてもおもしろい」と話しました。一方、画像認識システムでは、生徒は Google が提供している機械学習モデル作成ツールを使用し、ポーズ

を認識するというディープラーニングのひとつを体験しました。これは、ウェブカメラで撮影した生徒のポーズをコンピュータが収集・学習し、対象の画像を認識するというものです。生徒は①バンザイ、②非常口、③マッスルという3つのポーズを撮影してコンピュータに学習させたあと、コンピュータが学習したポーズを実際に認識できるかどうかを試しました。体験した生徒は「普段、AIを使っていると思うけど、どんな仕組みで作られているのかを知ることができてよかった」と感想を述べました。

今回の一日高専体験は、見る・聞く・触ることに加え、考える・やってみるという体験を含んでいることから、本校では問題解決能力や創造性を育む STEAM 教育（Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics の分野を統合的に学ぶ教育）にも大きく寄与することができたと考えています。本校は、今後もこのような小中学生に高専のこと・技術者のことを知ってもらう企画を実施していく方針です。





(商船学科航海コース 齊心 俊憲 記)

KOSEN FES 2025 国公立高専合同説明会(東京池袋)にて鳥羽商船高等専門学校を広報

6月15日(日)に開催された KOSEN FES 2025 東京池袋に参加しました。日頃、鳥羽で暮らしていると東京の人の多さを目にする時、あらためて驚きます。人が多すぎて、道に迷うのですが、結局、携帯電話に場所を教えてもらい、なんとか無事に会場につきました。全世界でこのような機能が使えるのですから本当に便利になりました。

この KOSEN FES では、いわゆる「高専」ってなんだろうと疑問に思う方々に対して、高専を是非知ってもらいたいと考えている各高等専門学校の職員が、訪れてくれた保護者、中学生の皆さんに懇切丁寧に説明するところです。そうです。皆さんに高専をもっとよく知っていただく必要があるからです。

それ故、「を例年、大都市である東京と大阪の2都市で開催しています。高専とは高等専門学校の略称であり、義務教育である中学校を卒業する15歳の若者を受入れて(入学)、5年間(商船学科は5.5年間)の一貫教育(主に理工系学問)を行う中で、大学生と比肩しうる高度な専門性を持つ人材(人財)を育てる日本独自の高等教育機関です。

KOSEN FES では、ロボット展示、電子工作などを体験できる科学教室等、各学校で工夫した催し物、体験学習等を行って、各学校の特徴も含めて説明を行っています。

また現役の高専生や社会人となった卒業生と直接話せるイベント等、中学生だけでなく小学生の皆さんでも楽しみながら高専を知ってもらえるように企画を数多く用意しています。そして、高専への受験を考えている小中学生と保護者の皆様に対して、各校の選りすぐりの教員が皆様の疑問になんでも答える、個別相談会も行っています。とにかく、高専のことを知らないひとに、高専の魅力を伝えたいと高専関係者誰もが切望しています。もし、自分の将来の進路に悩む小中学生がいまいたら保護者の方々と一緒に毎年開催される KOSEN FES にお越しください。

このように力を入れて KOSEN FES を紹介しているのですが、高専のことを知らない人にどうやって足を運んでもらうかが悩むところです。

さて、今回の KOSEN FES において鳥羽商船高専のブースは2つありまして、1つは先程述べたように高専受験を考えている中学生と保護者に教員が様々な疑問について答えてくれるブースで、もう一つは来訪者を楽しませる本校独自の企画ブースです。幸いなことに入試相談のブースでは途切れなく学生と保護者の方々が訪れてくれました。本校への関心の高さに有難い気持ちで一杯になりました。皆さん、本校のこと、入試内容について良く調べてきてくれているように思いました。一方、企画ブースでは、ロボコンで製作した部品を組み合わせた車を予め定めたルートを踏み外すことなくゴールまで操縦する、ゲーム感覚を競うものです。無事うまくゴールできた人には景品(ロボコンで

制作した電子回路基板)を進呈しました。もう一つは、鳥羽丸のコインを金属磨きで磨き、ピカピカのコインにする作業を行ってもらうものでした。高専機構の谷口理事長も参加して、本校学生と談笑しながらコインを磨いていました。少なくとも私が参加しているイベントでは理事長を必ず見かけるので、理事長は高専で行われる様々なイベントにほぼ参加されているように思います。このコイン磨きも個性が出ていて、すぐに終了する人もいれば、黙々と長時間、磨き続ける人もいます。皆さんには磨いてもらったコインを持ち帰ってもらいました。

この KOSEN FES で一人でも多くの方々に高専を知ってもらい、信頼して本校等に進学を考えてもらえれば望外の喜びです。もちろん、入学していただければ、人材育成の高等教育機関として、有為な人材に育成するように努めることをお約束いたします。



EXPO 2025 大阪・関西万博内 EXPO メッセ「WASSE」で鳥羽商船高等専門学校を広報

読売新聞社の共催により、高等専門学校生による社会課題の解決策を世界に発信するというテーマで「EXPO 共鳴フェス—万博から描く未来社会の技術、デザイン—」が6月18日(水)、19日(木)に開催されました。

私は6月18日に大阪万博会場である夢洲を初めて訪れました。会場の入口から EXPO メッセ「WASSE」まで距離がありましたが、迷いながらも国内外のパビリオンを横目で見ながら行ったので、外国にいるような雰囲気もあり、楽しかったです。その昔、1970年に開催された大阪万博を思い出しました。その時のテーマは「人類の進歩と調和」であり、技術の進歩と自然との調和を考えることを目的としたものでした。

EXPO メッセ「WASSE」の建屋内では、国内外から30校の高専が集まり、ロボット、エネルギー、食、商船などのテーマとして、それぞれの研究成果を披露する「高専未来チャレンジ」コーナーを設けていることその他、「未来社会の技術、デザイン」をテーマとした企業や大学のブースを設置、ステージイベントなども開催していました。

鳥羽商船高専のブースにおいて、訪れた方々に教員と学生さんが商船学科と情報機械システム工学科の説明を行ってもらいました。商船学科では、この日のために神戸港中突堤に着岸、停泊している鳥羽丸と万博会場のブースとの通信を行い、今年度、新しく運航している鳥羽丸の紹介を行いました。ブース内で練習船「鳥羽丸」の模型などを展示し、自律航行が可能で、最新の航海機器や遠隔操船システムなどを備えている特徴を説明しました。情報機械システム工学科では、今年度、新しく発足した高度情報工学コースの特徴を紹介しました。この日に本イベントに訪れてくれた人達は8千人とのことでした。用意していた学校案内のリーフレット約200部もあっという間になくなってしまいました。関西での本校の広報を考えると、良い企画であったように思いました。大阪府や兵庫県からも受験をしてもらえるように頑張ります。ブースでの本校の説明を手伝ってくれた学生さん達は会場でも大活躍でした。来訪している方々を鳥羽商船高専ブースに引き寄せるのがとても上手で驚きました。EXPO メッセ「WASSE」の高専の中でも一番うまく誘導していました。社会に出たらきっと何かの役に立つのでしょう。白い制服姿が皆さんの目を引いたのではないかと思います。来年度に関西から受験希望者が増えることを期待しています。



神戸港にて鳥羽丸乗船体験

翌日の6月19日(木)に神戸港の中心である中突堤に停泊している鳥羽丸に乗船しました。これまでも見学等で何度かは乗船しましたが、今回は神戸港から鳥羽の本校浮棧橋までの1泊2日の航海を体験させていただきました。昨日に引き続き、昼前までは一般の方向けに鳥羽丸の見学会を行い、学生さんたちが説明役で活躍していました。午後から、神戸港を出航して、大阪湾、和歌山紀伊半島の沿岸を鳥羽に向けて航行しました。今回の鳥羽丸の実習生は航海コースの学生さん達でしたので、航海士の訓練実習を行っていました。学生さん達の実習を初めて見学したのですが、当直中は皆さん、真剣に業務に取り組んでいました。日頃、学校内で見える皆さんとはまた違った一面を見ることが出来て、とても良かったです。この日は和歌山沖にて錨泊しました。学生時代の乗船実習から本当に久しぶりでしたが、やはり海から見る風景は美しく、乗船しなければ見ることでできない情景を楽しむことが出来ました。そして翌朝、鳥羽まで航行しました。鳥羽丸キャビンにて1泊したのですが、とても寝心地も良くて、ゆっくり休むことが出来ました。学生さんたちは実習なので、それほどゆっくりもできずに大変だったと推察します。実習生達のお陰で、お昼過ぎくらいに無事鳥羽に戻ってくることが出来、本校の浮棧橋に着岸しました。今回は帰路だけ乗船して、往路は乗船しませんでした。実は往路はとても揺れたらしいですが、帰路はまったく揺れなかったのが幸いでした。

実習生の皆さん、ご苦労様でした。この経験を皆さんの将来に活かせることを願っています。

そして貴重な乗船体験をさせていただきました齊心船長、山野機関長、乗組員の皆様にお礼申し上げます。お世話になりました。ありがとうございました。



(鳥羽商船高等専門学校校長 古山 雄一 記)

鳥羽商船同窓会だより

令和7年度理事会・総会・懇親会 開催

令和7年6月15日同窓会理事会、総会が母校メディアホール、懇親会は鳥羽国際ホテルで開催されました。当日は梅雨の前日までの雨がピタリとやみ好天に恵まりました。

母校メディアホールの入り口には修復された“練習船あまき”の模型が展示され皆が感嘆の声を上げていました。練習船あまき模型の修復は同窓会設立100周年事業の一つとして竹内大助(S44E)さんが中心になり、小松隆幸(S43E)さん、三井健次さん(S43E)、長谷川真佐雄(S44E)さんが協力して同窓会の力のみで見事に修復しました。総会当日に返還式が行われ母校にお返ししました。この模型は百周年記念館1階の資料室に展示されています。皆様鳥羽商船にお越しの際はぜひこの練習船あまき模型をご覧ください。



理事会は48名中出席28名、委任が13名、理事の半数以上で理事会は成立し、総会は同窓生63名の参加を得て無事終了いたしました。上程された協議事項はすべて承認され、新会長に菅沼延之(S48N)氏が再選されました。

会長挨拶の初めは前日に出席した攻玉社同窓会総会の感想を述べました。攻玉社同窓会も総会参加者の平均年齢は軽く60歳を超え、参加者の数も同じくらいで同窓会の運営に若い人たちの参加を如何に促すべきか、同窓会費の納入を如何に多くの人に収めてもらうかが共通の課題であったようです。又菅沼会長は自分の再選が承認されたならこの2年の任期の間に会則の見直しを含め、まず役員で検討委員会を設け、理事会全体で同窓会の改革を図りたいと述べました。



来賓に赤池まさあき参議院議員、小竹篤鳥羽市長のお二人が総会に出席され、ご祝辞をいただきました。

赤池参議院議員は今回の鳥羽丸建造にあたり多大なご尽力をいただきました。参議院の文教族として商船教育の弱体化に陥りそうになった場面他過去の苦難を乗り越えたお話から今回の5商船高専練習船の建造に至るまでの経緯をお話されました。これからは国会で大いに活躍していただくためには、我々鳥羽商船同窓会も菅沼会長以下同窓会員と可能な限り応援するとの声を上げました。



小竹市長は近年の少子化の中での鳥羽商船の人気度をお伝えするとともに、練習船鳥羽丸の災害支援船の役目と重要性を鳥羽市と母校で絆を深めていくとの誓いを述べられました。



江崎副校長から母校の現状が報告されました。今春の入学定員は情報機械システム工学科定員100名、商船学科40名の定員を満たすことができました。情報機械システム工学科は今年度から高度情報エンジニア育成のため20名の定員増をいたしました。

た。少子化の中で県立高校の競争倍率1倍を切る高校が多い中、本校はすべて定員を確保し、特に商船学科は近年では最高の1.6倍の高倍率でした。新練習船鳥羽丸を用いてスマートシップの研究を行う商船系と情報系がコラボした研究の立ち上げの準備もしていますと報告されました。



支部報告では東日本支部が毎年5月に横浜港カッターレース大会に参加していますが漕ぎ手が高齢化しているので若い人の募集を強く求めています。全支部とも理事の高齢化が顕著です。会長は2年の任期の間に未来につながる同窓会の在り方を検証し、会則の見直しを含めた同窓会改革の意欲を何度も声を大にして伝えました。



〔懇親会〕

懇親会は64名の同窓生と来賓に赤池参議院議員、三重4区の鈴木英敬衆議院秘書の角田太陽さん、同窓でもある廣耕太郎三重県議会議員、野村保夫三重県議会議員が出席し、祝辞をいただきました。



乾杯挨拶は平成7年制御情報工学卒の小阪圭一

さんが音頭を取りました。小阪さんは鳥羽丸建造から乗船回航のDVD制作に携わっています。



懇親会のアトラクションでは鳥羽丸の齋心船長(H1N)が船内設備のDVDを見なが新練習船「鳥羽丸」の紹介をしました。感嘆の声があちこちから上がっていました。



数十年ぶりに再会した同窓も多く楽しい懇談の中、鳥羽国際ホテルの美味しい料理と共に時間が瞬く間に過ぎました。



最後は岡山から昨年鳥羽に移住された加藤和彦(S35E)さんが挨拶を行い、中締めに関西支部長の坂田守(S56N)さんが来年の総会は神戸か大阪で開催するとの報告と一丁締めで会を終了しました。



事務局 江崎隆夫

広島商船高等専門学校

○第44回全国高校生読書体験記コンクール 優秀賞受賞

第44回全国高校生読書体験記コンクールにおいて、流通情報工学科3年の近藤瑚々さんが優良賞を受賞しました。

全国47都道府県399校、60,493編の応募のなか、39名の受賞者のうちの1名となり、非常に優れた体験記を執筆されました。

また、優良賞受賞校には「集英社文庫50冊セット」が贈呈される予定です。



○2月25日(火)叡智学園卒業クルーズを実施

叡智学園の島親が主催する「卒業クルーズ」を練習船広島丸で実施しました。

当日は46名の方が乗船し、広島丸の船内や普段はあまり見られない機関室などの見学や、操船体験を行いました。

船の上から見える大崎上島の景色を楽しみ、良い思い出となったようです。



○2月19日(水)産業振興交流会事業「最先端企業見学会」を開催

産業振興交流会による先端企業見学会を開催し、株式会社日本クライメイトシステムズ(広島県東広島市)を訪問しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年度以来5年ぶりに開催された本見学会は、会員の親睦を深め、先端企業の技術や取り組みについて学ぶことを目的としています。今年度は、本校学生3名も見学会に同行しました。

今回見学させていただいた企業は、主にマツダ車の空調システムの開発・製造、EV車用の省エネタイプの空調やバッテリーの冷却システムの開発に力を入れています。最新の設備を見学させていただき、品質向上への取り組みや、グローバル展開等の知見を得ることができ、大変有意義な見学会となりました。

○3月7日(金)卒業証書・修了証書授与式を挙

電子制御工学科・流通情報工学科卒業式、産業システム工学専攻修了式を挙行了しました。

(電子制御工学科39名、流通情報工学科38名、産業システム工学専攻5名)

逸見校長の手から、卒業生・修了生一人ひとりに証書授与が行われました。校長は自身の失敗談を通じ、「一所懸命に生きること。誠実に生きること。人の気持ちを考えて行動すること」の三つの教訓をお話しされました。

在校生代表からは商船祭やクラスマッチなどの思い出を振り返り、別れを惜しむ送辞がありました。

春の気配を感じられるこの頃、大きく育った学生たちは保護者・教職員に見送られ、本校を巣立っていきました。



○4月6日(日)入学式を挙行

穏やかな春の陽気の下、1年生139名、編入学生1名、留学生1名、専攻科産業システム工学専攻4名が入学しました。

逸見校長からは「しっかり食事をとり、部活や勉強に全力で取り組んでほしい。そして優しさと誠実さを大切に、責任感を持って自由に生きてほしい」と式辞があり、商船学科 川俣学生が新入生総代として宣誓を行いました。

また、学生会長から「学生主体の環境を積極的に利用し、活気あふれる学校を一緒に作っていきましょう」と歓迎の挨拶がありました。



○大崎上島中学校研修を実施

4月18日(金)に大崎上島中学校の1年生27名の研修を受け入れました。本校では毎年恒例のイベントとなっています。地元の中学生に本校を身近に感じてもらうべく高専とは何かをはじめとする全体説明からスタートし、広島丸船内見学や、技術教育センター棟を見学してもらいました。

参加者にとって、本校が将来の進路の選択肢の一つとして考えてもらえるきっかけになればと思います。



○学生会役員・寮生会役員の任命式を実施

5月27日(火)、令和7年度の学生会役員8名と寮生会役員10名の任命式を実施しました。

逸見校長より任命書が授与され、一人ひとりが今年度の抱負を述べました。

校長からは、「学生会には学校代表として学校を盛り上げてもらい、寮生会には学生が自治統制できるように力を貸して欲しい。」と激励の言葉があり、役員の学生たちは、改めて気持ちを引き締めた様子でした。

○大崎上島町立東野小学校海洋環境教室を実施

6月4日(水)本校の練習船広島丸で、大崎上島町立東野小学校の児童を対象に海洋環境教室を開催しました。小学4年生を対象に「ふるさとの豊かな海を守っていくために自分たちのできることを考える」をテーマに、瀬戸内海に生息するアマモについて学び、海の水質を調べるパックテストやシーカヤックを体験するプログラムを実施しました。参加してくれた児童にはふるさとの海を楽しく学ぶ貴重な体験となったようです。



○6月5日(木)前期クラスマッチ開催

校内にて令和7年度クラスマッチが実施されました。当日は天候にも恵まれ、予定されていたすべての競技が無事に行われました。リレーや綱引き、ドッジボール、カードゲームなど、さまざまな種目に学生たちは真剣に取り組み、クラスの仲間と協力しながら競技を楽しむ姿が見られました。

また、足の速さや肩の強さを競う個人種目も実施され、それぞれの得意分野で力を発揮する場面も多く見られました。競技を通じて、学年を越えた交流やクラス内の団結が深まり、充実した一日となりました。大きなトラブルもなく、全体を通して円滑に進行されました。

○令和7年度進学説明会(東広島)を開催

6月7日(土)に中学生を対象に令和7年度進学説明会を東広島商工会議所で開催しました。当日は校長あいさつに始まり、学校の全体説明、各学科の説明及び個別相談が行われました。学生が自身の体験をもとに説明した学科説明や個別相談には参加者は特に熱心に聞き入っていました。



○第51回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦

6月14日(土)に、本校及び弓削商船高等専門学校を会場として、第51回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦を開催しました。

当日は荒天予報でしたが、大雨に見舞われることなく、各会場で熱戦が繰り広げられました。

【2校定期戦結果】

【広島会場】

種目		広島	－	弓削	
卓球	○	9	－	1	×
サッカー	×	1 (3)	－ PK	1 (4)	○
バスケットボール（男子）	×	71	－	75	○
バスケットボール（女子）	×	14	－	43	○

【弓削会場】

種目		広島	－	弓削	
硬式野球	○	6	－	0	×
バドミントン（男子）	○	2	－	1	×
バドミントン（女子）	×	0	－	3	○
剣道（男子）	×	2 (4)	－	3 (6)	○
剣道（女子）	×	0 (0)	－	3 (6)	○
柔道	○	4	－	1	×
酒蹴	○	2	－	0	×



○本校練習船「広島丸」 歓迎訪船(門司港)

6月17日(火)に本校の練習船広島丸が航海実習のため門司港に寄港し、北九州市港湾空港局及び一般社団法人北九州港湾振興協会の皆様と北九州港マスコットキャラクター「スナQ」に歓迎していただきました。当日は歓迎挨拶とともに記念品の交換も行われました。美しい海峡の風景やレトロな街並みの門司港の景色とともに本校の実習にあたり素敵な思い出となりました。



○中国地区高専大会剣道部 優勝

7月5日(土)～6日(日)に尾道市長原スポーツセンターで開催されました第61回中国地区高等専門学校体育大会剣道競技において、本校剣道部が男子団体の部で優勝しました。た、女子団体の部で2位、男子個人の部で2位、4位の成績をおさめ、男子団体、男子個人の2名においては、9月に福岡県大牟田市で開催される全国高等専門学校体育大会への出場を決めました。



○第 60 回全国商船高等専門学校漕艇大会 優勝

7 月 13 日(日)、本校練習船棧橋にて「第 60 回全国商船高等専門学校漕艇大会」(主管校：広島商船高等専門学校)を開催しました。

本大会には、全国 5 校の商船高等専門学校から A チーム・B チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。その中で本校漕艇部は、A チーム・B チームともに優勝を果たし、見事 2 年連続の 2 冠を達成しました。

また、本校漕艇部から 1 年生クルーによる C チームもオープン参加として B チームのレースに出場させていただきました。C チームは B チーム予選タイムにおいて 3 位相当の記録を出すなど、今後の活躍が期待される貴重な経験となりました。



(商船学科 金川 静子)

校友会

【総会報告】

5 月 10 日(土)、神戸三宮東急 REI ホテルにて出席者 38 名で総会が開催されました。



★ 校友会会員の方へ

今年度より、過去 3 年案内に返信のない方には、郵送を廃止しています。

【合祀式のお知らせ】

10 月 11 日(土)11 時より本校慰霊碑広場にて、今年度亡くなられた 24 名の合同慰霊祭を開催します。多数の参加をお願いいたします。

広島商船高等専門学校 校友会

月金 9:00~15:00

TEL 0846-65-3899

Mail : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp

弓削商船高等専門学校

ECC セブ校にて2週間の短期留学に学生5名が参加

令和7年3月9日（日）～3月23日（日）、本校の学生5名がフィリピンのECC セブ校へ2週間の短期語学留学に参加しました。平日は朝から夕方まで毎日8時間の英語学習生活を送り、上手にモチベーションを保ちながら英語力を向上させていました。

この経験を通じて、英語力の向上だけではなく、日本では見ることのできない景色や体験できない異文化に触れることができ、自己成長の良い機会となりました。

外国語環境に身を置くことで、教室内外を問わずあらゆるコミュニケーションにおいて英語を使うことで、プログラムの終盤には英語を使うことにずいぶん慣れて楽しんでいる様子がうかがえました。

これからも自信を持って英語を使い、国際社会で活躍してくれることを心から願っています。



令和7年度入学式を挙行

令和7年4月4日（金）、令和7年度入学式を挙行し、本科生125名、留学生2名、専攻科生5名の計132名の学生が入学しました。

式ではまず、入学許可が行われ、本科入学生及び専攻科入学生による入学宣誓がありました。その後、内田校長から高等教育機関である高専

で学ぶ学生となることを意識すること、自ら学問を修める能動的な学び、学修に取り組んでいくため、弓削商船高専の教員、職員、施設、設備を遠慮せずに頼り、困難を乗り越える、時には回避する経験を積んで大きく成長してくださいと式辞が述べられました。また、来賓の上村俊之上島町長から御祝辞をいただき、入学生はこれから始まる新生活に期待を膨らませながら聞き入っている様子でした。

最後に、在校生を代表して、商船学科4年の水野さくらさんが歓迎の言葉を述べた後、入学生を代表して商船学科の正木智也さんが答辞を述べました。

多数の来賓、教職員そして保護者に見守られながら、入学生の弓削商船高専での新たな生活が始まりました。



第1回新入生対象メンタルヘルス研修

令和7年4月7日(月)は1年全員、4月10(木)は電子機械工学科1年生、4月17日(木)は情報工学科1年生、4月24日(木)は商船学科1年生を対象として、第1回新入生対象メンタルヘルス研修を実施しました。

1年生全員研修の目的は、対人関係の重要性を学ぶことで、学生相談室の案内、教職員へ報告・相談の方法、対人関係の距離感について張領太カウンセラーから説明を受けました。

クラス別研修の目的は、学校生活で「話せる仲間」「安心できる雰囲気」をつくること、ストレスについて理解すること、困ったときの相談先を知ることでした。春田裕和スクールソーシャルワーカーがファシリテーターとして構成的グループエンカウターの体験活動を行いました。研修後のアンケートでは、「話したことのない人と話せた」、「自分との共通点が多かった」、「多くの人と話せた」、「とても楽しかった、仲間のことが分かって嬉しかった」、「共通の趣味を見つけて嬉しかった」などが多く見られました。この研修を通して、学生間のつながりや安心感が生まれました。また、困ったときの相談先の理解も深まる機会となりました。クラス別メンタルヘルス研修を後期にも行うことにしています。



令和6年度 第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールに入選

昨年度、国語の授業の一環として応募した「第22回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール」に「商船学科 阿久津湜祐さん」「電子機械工学科 榊原要さん」の2名の作品が高等学校の部3309首の中から入選作品に選ばれました。

このコンクールは、斎藤茂吉没後50周年を記念して平成15年度より開催されており、短歌づくりを通して子どもたちが地域を再確認・再発見するとともに国語力の向上につなげることを目的としています。

船室の窓より望む海原に浮かぶ初日に家族を想う 阿久津 湜祐

(背景) 自分は船内で年越しを迎えました。その時ふと思った「みんな今頃何してるかなあ」という気持ちを、船内であることも伝わるように表現しました。

白き息空へ溶けゆく朝の道音なき冬に鳥の影あり 榊原 要

(背景) 白い息が出て冬を感じた時に思いつきました。



D-CON2025にてポスター発表

令和7年5月9日(金)、10日(土)、第6回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2025(D-CON2025)が開催され、本校(チーム:畜産フレンズ)から、電子機械工学科3年 平盛優希さんと佐藤翔太さんが参加しました。

本コンテストでは、様々な社会課題や地方産業の活性化に対し、高専生が日頃から培ってきたモノづくりの技術とAI技術を活用した事業アイデアを提案し、審査員である投資家による企業評価額を競います。

本チームは、1次審査と2次審査を通過したものの、最終審査で惜しくも落選となりましたが、オープン参加として酪農産業を救う牛の体重測定システムを提案しました。



情報工学科3年の航海実習を実施

令和7年5月14日（水）、15日（木）、情報工学科3年生の航海実習を実施しました。

学生たちは練習船「弓削丸」に乗船し、広島県呉市の港へ向かい、株式会社ディスコ桑畑工場、自衛隊呉地方総監部及び練習艦「しまかぜ」の見学を行いました。

また、移動中の船内では、弓削丸のブリッジやエンジンルームにて船舶に関する授業を受け、実際に船内での食事や宿泊も行うことで、船舶関連の知識を深めることができました。



留学生が弓削小学校を訪問

令和7年5月13日（火）、本校留学生である電子機械工学科5年のトングさん、情報工学科4年のバトボルドさん、キルティさんが、「日本事情」の授業の一環として、弓削小学校5年生の算数の授業に参加し、小学生と交流しました。留学生は、英語・母国語・日本語でそれぞれ自己紹介を行い、小学生と一緒に算数の授業を受講しました。

日本の小学校の授業に参加することで、日本人がどのように学習しているか、身をもって体験することができました。



商船高専生のための仕事研究セミナー実施

令和7年5月18日（日）、第一体育館において商船高専生のための仕事研究セミナーを開催しました。

本校商船学科の1～5年生、広島商船高専及び大島商船高専の商船学科4・5年生が参加し、108社の企業から説明を受けました。

このセミナーは、ブース形式で5回のローテーションを行い、午前と午後で参加企業を入れ替えて実施しています。

学生たちは、業界や職種への理解を深めるとともに、企業の方々との対話を通じて自らの適性や興味について考える良いきっかけになりました。将来の進路選択に向けた意識を高めることにつながるこのセミナーに参加した学生たちは、1日を通して複数の企業を訪問し、各ブースでの説明に熱心に耳を傾けていました。



2025年度NTTドコモグループ総合防災訓練練習船「弓削丸」参加

令和7年5月22日（木）、別府国際観光港において、2025年度NTTドコモグループ総合防災訓練が行われ、練習船「弓削丸」が船上基地局による通信復旧訓練に参加しました。

この訓練は「南海トラフ地震」により通信が遮断となった場合を想定して行われたものであり、本校

は株式会社NTTドコモ四国支社との間で令和4年度に締結し、令和6年度に更新した【練習船「弓削丸」及び実習船「はまかぜ」の災害支援利用推進に関する連携協定】に基づき参加しました。

先月本校棧橋で実施した災害対策訓練を参考に船上基地局用の機材を搬入・設置を行い、被災時の通

信復旧手順を確認しました。

なお、訓練後は190名を超える方々に練習船「弓削丸」の船内を見学いただき、防災を学ぶとともに最新鋭の設備を備えた練習船を身近に感じていただく良い機会となりました。



フィリピン・MAAP 学生との国際交流会を実施

令和7年5月25日(日)～5月27日(火)、フィリピンのアジア太平洋海事大学(MAAP: Maritime Academy of Asia and the Pacific)から学生18名が本校を訪問し、様々な国際交流プログラムを実施しました。

交流会では、1年生とのカッター訓練をはじめ、3年生との合同弓削丸乗船実習、カッター部との交流試合、5年生とのスポーツ交流など、学年を超えて多くの学生が関わる貴重な機会となりました。

言葉や文化の違いを超え、学生たちは笑顔でコミュニケーションを取りながら、お互いの学びや価値観に触れることができました。特に本校の学生にとっては、英語でのやり取りや異文化理解に挑戦する大きな第一歩となったようです。

今回の交流をきっかけに、学生たちが国際的な視野を広げ、海事分野におけるグローバルなつながりを実感してくれたことを、大変うれしく思います。

今後も、このような国際交流の機会を継続的に設けてまいります。



アクセンチュア株式会社・CompTIA さんをお招きしてセキュリティ講座を実施

令和7年5月28日(水)、アクセンチュア株式会社とCompTIAによる産学連携プログラムの一環として、情報工学科5年生を対象としたセキュリティ講座を実施しました。

本講座では、ブラウザ上のバーチャル環境でセキュリティの実践的な学習ができる

「CompTIA Labs」を活用した講義を行っていただきました。学生たちは、様々なネットワーク上から見たサーバの状態などを問題形式で確認するなどの演習を通じて、セキュリティ設定の重要性について、より深く理解することができました。



性的マイノリティ研修「LGBTQ+について知ろう」を実施

令和7年5月29日(木)、1年生全員を対象に、性的マイノリティ研修「LGBTQ+について知ろう」を実施しました。

本研修の目的は、LGBTQ+についての理解を深め、身近なものとして捉えることです。研修では、藤本大祐カウンセラーがLGBTQ+やSOGI(性的指向・性自認)について説明を行いました。その後、カミングアウトを受けた場面を想定し、実際に自分がその状況に直面した場合、どのような気持ちになるか、どのように対応するかを学生それぞれが考え、意見を共有しました。

研修を受けた学生からは、「今日話を聞いて、普段耳にしないLGBTQ+やSOGIについて詳しく知ることができた」、「今まで特に意識していなかったが、これを機に少し考えてみよう」と

思った」など、LGBTQ+について考えるきっかけになったという感想が寄せられました。また、「その人がどのような人なのかを自分で考え、関係を築くことが重要だと思った」といった声もあり、学生自身が多様性について考える機会となりました。

日本におけるLGBTQ+のいずれかに該当する人は約10人に1人という調査結果があります。本校でも、多様な性のあり方を認め合い、お互いを尊重しながら、学生全員が安心して過ごせる環境を整えることを大切にしています。そのため、合理的配慮の提供をはじめ、学生相談室やダイバーシティ推進室の活動を通じて、学校環境の整備に努めています。



初年次教育で税の教室を開催

令和7年6月12日（木）、税理士の方を講師に迎え、本科1年生を対象に「税の教室」を実施しました。

学生達は、講師からの問いかけに積極的に回答しながら、税の仕組みや役割について理解を深めていました。また、各学科から代表学生を選出し、税に関するテーマについてグループで意見を出し合いながら議論を行う場面もあり、主体的に学ぶ姿勢が見られました。

今回の「税の教室」を通じて、次代を担う学生達が税に対する関心を高め、社会の一員としての自覚を育んでいくことを期待しています。



1年生対象いじめ防止研修を実施

令和7年6月26日（木）、本校の春田裕和スクールソーシャルワーカーを講師として、本校1年生を対象としたいじめ防止研修「いじめのない学校をめざしてみんなで考えよう」を実施しました。いじめを見つけたら一人で抱え込まず、信頼できる大人に相談すること、いじめを防ぐには困っている友達に気づいて行動する勇気を持つことなど、自分たちが今できることについて考える機会となりました。



【 練習船弓削丸 森瑛太郎 記 】

弓 削 商 船 高 専 同 窓 会

■令和7年度弓削商船高専同窓会支部長会議と総会を開催

令和7年6月21日（土）、JRホテルクレメント高松2階「華」において、令和7年度弓削商船高専同窓会支部長会議、同2階「暁・霞」において総会が開催されました。

支部長会議には会長および各支部長を含む13名が出席し、総会の議事確認、令和6年度の活動報告および令和7年度の計画が報告されました。

総会は同じ階の暁・霞において19名が出席し、次第に沿って開催地支部長の挨拶、会長の挨拶が行われた後、6つの議案が審議され、全て承認されました。

報告では、令和8年度より工業系の2学科が改組される準備が進められていることが伝えられました。

次年度の総会は松山支部で開催される予定です。



■弓削商船高専同窓会総会ゴルフコンペを開催

令和7年6月22日（日）、弓削商船同窓会総会の関連行事として、恒例のゴルフコンペを香川県さぬき市にある「志度カントリークラブ」にて開催いたしました。当日は、7名の同窓生が参加し、久しぶりの再会に笑顔があふれる中でのスタートとなりました。

会場となった志度カントリークラブは、瀬戸内海を一望できる絶好のロケーションに位置しており、海を望む美しい景色を楽しみながらのプレーが可能です。潮風を感じながら、爽快な気分で行うことができました。天候については、午後から雨の予報が出ていたものの、プレー中に雨に打たれることは一切なく、最後まで快適なコンディションのもとでコンペを行うことができました。

競技は和やかながらも真剣に行われ、各ホールで笑顔と歓声が飛び交う中、見事に栄えある優勝を勝ち取ったのは三阪さんでした。以下、上位3名の方のご紹介いたします。

ご参加いただいた皆様、そして準備・運営にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

	氏名	ネット
優勝	三阪 弘樹	70.2
第2位	堀内 智明	75.4
第3位	田房 友典	75.6



■N70 高尾幸徳氏が水先人会連合会の会長に就任

令和7年6月に水先人会連合会の会長に就任したN70 高尾幸徳氏の記事が、令和7年6月30日（月）日本海事新聞の記事に掲載されました。次の URL をご覧ください。

「日本海事新聞 電子版」へのリンク



■同窓会事務局

電話（学校代表） 0897-77-4606

FAX 0897-77-4692

メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典（I2期）

大島商船高等専門学校

令和7年3月から7月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・催事

○令和7年度入学式を挙

令和7年4月6日（日）入学式を挙りました。今年度は、商船学科42名、電子機械工学科43名、情報工学科49名の合計134名が入学し、また、専攻科電子・情報システム工学専攻に10名が入学しました。さらに、電子機械工学科の第3学年に1名転入学し、電子機械工学科の第3学年及び情報工学科の第3学年に1名ずつ留学生が編入学しました。

藤本隆士校長は、新入生に対して「これからの技術者は、自然環境に配慮し、人に優しいものづくりをし、自分とは異なる考えや価値観を尊重しあって、互いに成長していく、多様性を受け入れるマインドが重要となります。高専での学びを通して、高専の大きな特色である、教わるという受け身の姿勢ではなく、自分で考え、疑問や課題を解決していく、積極的に学ぶという姿勢を身に付けていくことを期待します。」と話し、式辞としました。



藤本隆士校長式辞

2. 教育活動

○「3D CAD 講習会」及び「3D プリンタ取扱説明会」を開催

令和7年5月13日（火）～15日（木）の3日間、本校の起業家工房「KMT 海洋開発センター」の機器利用のための講習会として、「3D CAD (FUSION) 講習会」と「3D プリンタ (Markforged) 取扱説明会」を開催しました。この工房では、最先端の機器を用意し、学生自らの創造活動に使用することができます。講師は昨年度講習を受け創造活動を行った専攻科生が担当し、学生28名が参加しました。



3D CAD 講習会の様子

○商船高専生のための仕事研究セミナーに参加

令和7年5月18日（日）、弓削商船高等専門学校（愛媛県）において、瀬戸内3商船高専の商船学科学生を対象にした「商船高専生のための仕事研究セミナー」が開催されました。

本校からは商船学科2年生（8名）、3年生（8名）、4年生（34名）、5年生（9名）、実習生（1名）合計60名が参加しました。（弓削商船高専、広島商船高専、大島商船高専との合計で約200名超が参加）

会場となった弓削商船高専（第一体育館）には、午前と午後合わせて約80社を超える出展があり、海運会社のみならず船舶管理会社や機

械メーカーなど、商船高専卒業生の就職先として採用実績のある会社が多数来場しており、学生も各社ブースにて真剣に耳を傾ける等、有意義な時間を過ごすことができました。



セミナーの様子

○旅客船 HANARIA（船主：商船三井テクノトレード株式会社）入港

令和7年5月19日（月）、本校練習船棧橋に旅客船 HANARIA が入港し、船内見学させていただきました。HANARIA は日本で初めての水素燃料電池、リチウムイオンバッテリー、及びバイオディーゼル燃料から推進エネルギーを選択し航行できる旅客船です。

船内見学では、普段の練習船にはない設備について熱心に質問する学生の姿も見受けられました。



船内見学の様子

○本校の外国人留学生及び日本人学生交流イベント開催

令和7年6月30日（月）、本校在学中の外国人留学生と日本人学生の相互理解及び交流を深めるため、学内における学生交流イベントを開催しました。発表は、タイ、インド、そしてマレーシア出身の留学生による各出身国の紹介を日本語及び英語で行いました。

発表終了後、本校及び高専が提供する国際交流プログラムの中で、今後参加してみたいプログラムなど、次年度以降の国際交流活動に対するアンケートを行いました。シンガポール、台湾、そして韓国派遣に参加してみたいという回答がありました。

本校では国際交流及び異文化交流に興味を持つ学生が年々増えています。今後もこのようなイベントを国際社会に飛び立つ原動力にしていきたいと考えます。



イベントの様子

3. 地域連携活動、公開講座など

○本校学生が山口県警サイバー防犯ボランティアに委嘱

令和7年7月14日（月）、本校学生が「山口県警サイバー防犯ボランティア」に委嘱されました。

「山口県警サイバー防犯ボランティア」とは、インターネット上における自主的な防犯ボランティア活動を行う団体である「サイバー防犯ボランティア」を山口県警が委嘱し、安全で安

心なサイバー空間の実現に向けて、一緒に活動する制度です。

「大島商船高専サイバー犯罪抑止隊」は、今後、インターネットを利用した犯罪被害防止のための教育活動、防犯の広報啓発活動、サイバーパトロール等を、山口県警及び柳井警察署と連携し行っていく予定です。

4. 学校 PR 活動、クラブ活動の表彰など

○WiCON2024（高専ワイヤレステックコンテスト）で、KDDI エンジニアリング賞を受賞

令和7年3月6日（木）、東京大学伊藤謝恩ホールにて、WiCON2024 の最終本選大会が開催されました。大会ではコンテスト採択チームから選ばれたチームによるプレゼンテーションと合わせ、本選大会に進出できなかったチームによるポスター発表も行われ、本校のチーム「周防アワサング観察隊」が「自動追尾ビームアンテナを用いた水中ドローンによるニホンアワサングの遠隔観察」を発表し、KDDI エンジニアリング賞を受賞しました。

○中国地域選抜が優勝!!2025 東京エネシスカップ 第2回全国高専サッカー地域選抜大会

令和7年3月17日（月）～19日（水）の3日間、「2025 東京エネシスカップ第2回全国高専サッカー地域選抜大会」がJ-Green 堺（大阪府）にて開催されました。株式会社東京エネシスの全面的なスポンサードのもと各地域20名の選手で構成された地域選抜の対抗戦です。今回の第2回大会は、九州・沖縄、中国、関西、北信越、東海、北海道の6地域が参加しました。

中国地域選抜の20名には本校から4名が選出されました。また、コーチとして小林孝一朗教員、団長として幸田三広教員が帯同しました。

初日はリーグ戦（80分ゲーム）を行い、北海道選抜に3－1で勝利。続いて関西選抜に6－0で勝利し、決勝戦にコマを進めました。決勝戦は北信越選抜と対戦し、1－0で勝利、見事

大会初優勝を果たしました。中国地域選抜のゴールキーパーとして大活躍した本校学生が大会最優秀選手に選ばれました。

○第1回オープンキャンパスの開催

令和7年6月14日（土）、第1回オープンキャンパスを開催しました。天候には恵みありませんでしたが、中学生136名の方に参加いただきました。教員の研究室の公開や大島丸での体験航海など、本校への理解を深めていただく良い機会となりました。



学校説明の様子

○第60回全国高専漕艇大会に出場

令和7年7月13日（日）、実施された第60回全国高専漕艇大会にて、本校漕艇部が準優勝しました。

32℃を越す猛暑の中、熱戦が繰り広げられ、本校漕艇部A艇（1軍チーム）が惜しくも2位と健闘しました。



中央の赤シャツが大島艇

（商船学科 松村 哲太 記）

大島商船同窓会

【2025 年度 第 1 回 京浜小松会事務局会議実施】

日時：2025 年 04 月 04 日（金）1830 時 より
出席者：本田(睦)、西山、中西、本田(芳)、平賀、藤谷、丁田（7 名）

場所：川崎

第 42 回横浜カッターレース大会の参加及び、京浜小松会総会および同窓会の開催について話し合いました。



【令和 7 年度大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部総会（令和 7 年 4 月 13 日）】

令和 7 年 4 月 13 日（日）、鹿児島支部小松会の総会を鹿児島市内で開催いたしました。

10 名の会員にご参集いただき、支部会長挨拶・その他の議事を進めた後、懇親会に移りました。

また、今回も毎年のことながら大いに話が弾み大変楽しい小松会でした。

来年も元気な姿でお会いできるのを楽しみにしております。



【旭日小綬章 勲章 高専 1 期(NN1) 綿森 繁樹さん】



令和 7 年 5 月 14 日に行われた、勲章伝達式で、高専 1 期(NN1) 綿森 繁樹さんが「旭日小綬章」を受章されました。

【大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部ゴルフコンペ（令和 7 年 4 月 25 日）】

令和 7 年 4 月 25 日（金）大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部ゴルフコンペを、「入来城山ゴルフ倶楽部」で開催いたしました。

当日は、朝から少々曇りでしたが、風もなく絶好のゴルフ日和で参加者の皆さん楽しくゴルフを満喫でき、親睦を深める事が出来ました。優勝(ダブルペリア)は、中村則夫さん(E65)でした。おめでとうございます。

中村さんは、前回の大島商船高専同窓会小松会鹿児島支部ゴルフコンペでも優勝し、2連覇です。

ベスグロは、大迫哲哉さん(N71)でした。おめでとうございます。

幹事の大迫哲哉さん(N71)のご苦勞に対し感謝いたします。

次回は、令和7年10月を予定しております。
ゴルフコースは未定です。

決定次第、大島商船同窓会 HP に掲載いたします。

多くの同窓の皆さまの参加をお待ちしております。



【鹿児島港寄港独立行政法人海技教育機構 練習船「日本丸」表敬訪船(令和7年5月20日)】

令和7年5月20日(火)、鹿児島港寄港中の独立行政法人海技教育機構「練習船日本丸(2,570 GT)」を、

堀ノ内会長(N67)・堀之内理事(E73)・山下理事(N76)・赤崎正隆氏(船舶入港歓迎会)の4名で表敬訪船いたしました。

船長室で小屋野船長・東福機関長・後藤二等航海士の皆様と親しく懇談できました。

また、船橋はじめ船内を案内して頂きました。日本丸の鹿児島港寄港は、5月20日(火)～5月24日(土)の5日間でした。

(文責 N67期 堀ノ内 仁)



【京浜支部 第 42 回 横浜港カッターレース】

昨年度に引き続き、令和 7 年 5 月 25 日に開催の横浜港カッターレースへ参加を予定しておりましたが、荒天が予想されたため中止となり、残念ながら集まることができませんでした。約 40 名の参加を予定しており、久しぶりに顔を合わせる同窓生もいたにもかかわらず集まる機会を逃してしまい大変残念でした。来年度もカッターレースに是非参加したいと考えておりますので、多くの同窓生がお集まりいただきますようご協力のほどよろしくお願いします。

【支援活動について】

大島商船高専同窓会ではクラブ活動等への応援をさせていただいております。

今回はヨット部の中国大会への出場について支援し、下記の通り報告をいただきました。

大会名：第 65 回中国高等学校ヨット選手権大会兼 第 66 回全国高等学校ヨット選手権大会中国水域予選会（通称：インターハイ予選）

日時：令和 7 年 6 月 19 日（木）～22 日（日）、4 日間

会場：境港公共マリーナ（鳥取県境港市）

主催：中国高等学校体育連盟 鳥取県高等学校体育連盟

主管：中国高等学校体育連盟 ヨット専門部 他
参 加 校：11 校

本校からはいずれも男子のみで、3 年生及び 2 年生は 420 級（ダブルハンド）、1 年生は ILCA6 級（シングルハンド）の計 3 艇で出艇しました。

本校のヨット部は、練習計画から技術的な指導まで主に上級生が行うという学生主体で活動を積み重ねて参りました。上位入賞は叶いみせんでしたが、引き続き、今後の大会に向けて鍛錬していく所存です。



【慰霊祭および同窓会理事会・総会開催のお知らせ】

令和 7 年度大島商船高専高等専門学校慰霊祭および同窓会理事会・総会を 9 月 18 日に開催を予定しております。皆様ご参列いただきますようよろしくお願い申し上げます。

海 技 教 育 機 構

● 乗船実習

令和7年4月から6月までの3ヶ月間、高等専門学校6年生（第54期生）の実習生は、青雲丸と大成丸に分かれて乗船し実習を行いました。青雲丸には、富山・鳥羽・大島の航海科と富山・鳥羽・大島・広島・弓削の機関科が乗船しました。大成丸には、広島・弓削の航海科が乗船しました。

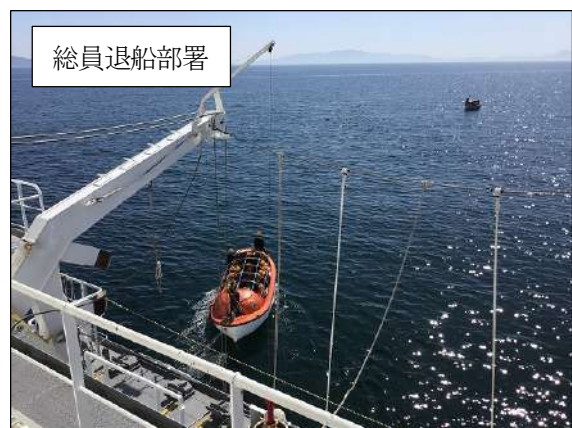
青雲丸の実習生は、4月1日に東京で乗船し、神戸、高松、門司、清水に入港し、神戸で下船しました。航海科の実習生は、入港した各々港の特徴を学習し自らの経験としました。また、浦賀水道航路をはじめ、明石海峡航路、備讃瀬戸航路、来島海峡航路を通峡し航海当直及び航路見学を行いました。6月の乗船実習の終盤頃には、航海計画発表会を行い各々の航海計画について意見交換を行いました。航海士の教官や実習生の仲間からの意見を聴き、より安全運航の意識を高めることができたようです。機関科実習生の実習では、入出航準備である暖気・冷気作業や、プラント全体の理解を深めるための配管調査、整備作業を行う分団実習を行いました。また小豆島沖仮泊中に主機ピストン抜き実習を行いました。主機ピストン抜き実習を通じて、主機の内部構造に関して理解を深め、整備作業に関する技能を習得することができたようです。



【写真1】青雲丸（大阪湾仮泊部署）



【写真2】青雲丸機関室（配管調査）



【写真3】青雲丸（操練）



【写真4】青雲丸（分団実習）

大成丸の実習生は、4月1日に神戸で乗船し、東京、名古屋、細島、鹿児島に入港し、神戸で下船しました。航海科の実習生は、入出港作業を通じて、乗組員の配置ごとの役割やコミュニケーションの重要性を学びました。5月には、明石海峡航路、備讃瀬戸航路、来島海峡航路を通峡し航海当直や航路見学を行いました。国内でも有数の入出港数をほこる各港や、海運の要所である各航路を経験し、航海士として業務の大変さとやりがいを感じることができたようです。また、3ヶ月間の海上生活を通してシーマンシップを身につけることができました。



【写真5】大成丸（航海当直）

高等専門学校6年生の実習生は、上記の実習に続いて、7月から9月にかけて銀河▼及び青雲丸にそれぞれ乗船し、最後の3ヶ月の実習に臨みます。

<令和7年7月から9月までの乗船実習予定>

- 日本丸
 - 海上技術短期大学校 専修科（清水）
7/8 乗船、7/12 東京発、7/24～7/28 青森、
8/1～8/5 苫小牧、8/13～8/18 函館、8/26
～8/30 佐世保、9/9 神戸着、9/11 下船
- 海王丸
 - 海上技術短期大学校 専修科（清水・宮古）
航海専科（小樽）
7/1 乗船、7/4 東京発、7/11～7/15 横浜、
7/22～7/26 函館、7/31～8/4 宮古、8/8～
8/12 小樽、8/16～8/20 伏木富山、8/30～

9/3 神戸、9/8 横浜着、9/10 下船

- 大成丸
 - 海上技術学校
7/1 乗船、7/4 神戸発、7/10～7/14 小松
島、7/20～7/24 東京、7/29～8/2 東京、
8/8～8/12 名古屋、8/23～8/27 室蘭、9/8
東京着、9/10 下船
 - 海技学院 民間六級（航海）
7/1 乗船、7/4 神戸発、7/10～7/14 小松
島、7/20～7/24 東京、7/29 東京着、7/31
下船
- 銀河丸
 - 高等専門学校（機関）6年
 - 大学（航海）乗船実習科
 - 海技大学校（航海専修・機関専修・航海専
攻）
7/1 乗船、7/3 東京発、7/11～7/15 釧路、
7/23～7/28 東京、8/8～8/13 シンガポ
ール、8/25～8/29 神戸、9/4 入渠地着、9/5
下船
- 青雲丸
 - 高等専門学校（航海）6年
 - 大学（機関）乗船実習科
7/1 乗船、7/3 神戸発、7/13～7/17 東京、
7/25～7/29 小樽、8/8～8/12 青森、8/21
～8/25 函館、8/30～9/3 横浜、9/9 神戸
着、9/10 下船

今後とも JMETS へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

*気象状況等によりスケジュールが変更する場合がございます。

● 海事広報

SNSによる情報発信

WEBを活用して実施できる広報活動について、現在は、X（旧ツイッター）、フェイスブックなどで積

極的に情報発信を行っております。是非ご覧ください。

海技教育機構公式 Facebook



<https://www.facebook.com/jmets.ac.jp>

海技教育機構公式 X (旧 Twitter)



<https://twitter.com/jmetsacjp>

賛助会員募集中

優秀な船員を輩出するため、盤石な経営と運営を目指し多くの皆様にご協力をお願いをさせていただいております。

弊機構の目的及び事業にご賛同下さる皆様には是非ともご支援を賜りたく、賛助会への入会をお願い申し上げます。

<https://www.jmets.ac.jp/donation/o4qt2d00000002ey.html>



公式グッズ販売中

海事思想普及の一環として、御船印プロジェクトへの参加や練習船カレー、JMETS カレンダーの監修をしております。

<https://www.jmets.ac.jp/goods/index.html>



本部・支部だより

- 2025/4/6 大島商船高等専門学校入学式(徳嶋)
- 2025/4/12 海技教育機構(JMETS)の
練習船「海王丸」ホノルルへ
出航式(横浜新港埠頭)(徳嶋)
- 2025/4/25 監事監査(酒迎監事)
- 2025/4/26 2025 年度第 1 回通常理事会開催
(千代田区神保町区民館)(理事:
広重会長等 9 名:監事 2 名)
- 2025/5/14 第 52 回戦没・殉職船員追悼式(観
音崎公園「戦没船員の碑」)(広重・
徳嶋出席、実行委員として式典を
支援)
- 2025/5/29 日本海難防止協会第 1 回通常理事
会(広重)
- 2025/6/5 海技教育財団理事会(広重)
- 2025/6/6 日本殉職船員顕彰会通常理事(広重)
- 2025/6/7 2025 年度通常総会
(日本教育会館)(理事 8 名、監事
1 名、以外 4 名)すべて原案通り
承認されました。
- 2025/6/12 赤池先生選挙事務所開所式
(広重・徳嶋)
- 2025/6/20 すずき英敬と日本の未来をつくる
会(広重)
- 2025/6/25 衛藤征士郎 EBS(広重)
- 2025/6/26 日本水先人会連合会懇親会
(広重)
- 2025/6/27 日本船主協会通常総会懇親会
(広重)
- 2025/7/3 赤池先生出陣式(広重、徳嶋)
- 2025/7/13 第 60 回全国商船高等専門学校漕艇
大会(於大島商船高専)(広重)
- 2025/7/16 赤池まさあき個人演説会
(広重、徳嶋)
- 2025/7/18 第 25 回「海の日前夜祭」 ヨコハ
マワークピアホテルにて三協会
(全船協・海洋会・海保若葉会)
(広重、徳嶋)
- 2025/7/28 銀河丸 シンガポールへ向け出航、
見送りの式典(徳嶋)

賛助会員名簿

2025年7月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。（一社）全日本船舶職員協会

北斗会事務局	大島商船高専同窓会
鳥羽商船同窓会	株式会社コトシステム
北星海運株式会社	山友汽船株式会社
株式会社B&Sエンタープライズ	栗林商船株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	八馬汽船株式会社
大四マリン株式会社	NSユナイテッド内航海運株式会社
太洋産業貿易株式会社	旭運輸株式会社
広島商船校友会	上野トランステック株式会社
日本栄船株式会社	有限会社ハマテクノサービス
日本ガスライン株式会社	名阪船舶株式会社
戸田汽船株式会社	弓削商船高専同窓会
株式会社商船三井内航	菅原汽船株式会社
神戸マリーン工業株式会社	株式会社マリントランスシステム
正栄汽船株式会社	かもめプロペラ株式会社
東興海運株式会社	株式会社オーシャンリンク
摂予汽船株式会社	兵機海運株式会社
協同商船株式会社	日本油化工業株式会社
株式会社アイエスシー	日本フィールド&マリンエンジニアリング株式会社
玉井商船株式会社	東海海運株式会社

2024、2025 年度会費納入者芳名帳

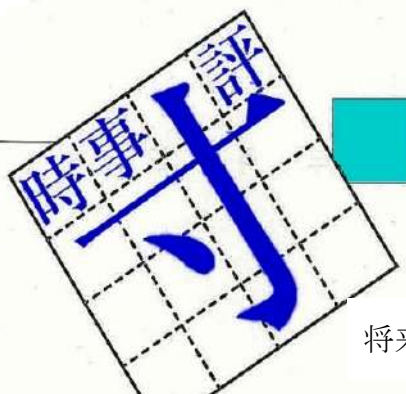
2025 年 4 月 1 日～2025 年 7 月 31 日現在

4月	6月	出光タカ- (株)	宇佐見 航一	田辺 光
個人	共栄タカ- (株)	野間 虎三	徳山 公彦	古田 輝
山中 亨子	佐藤 好司	瀬戸口義典	福井 悟	西浦 周
早崎 弘泰	外谷 正彦	有馬 功人	伊賀 勇治	中井 冴風
丁田 慎一郎	石田健一郎	中坂 勝史	児玉 賢志	満井 青空
水野 博之	浦田 建	山本 一成	間島 崇夫	古田 薫
オーシャントランス (株)	中野 寛士	三藤 亮吾	金子 大輔	伊藤 裕真
山本 勝昭	岩城 音芽	7月	大宅 理志	中神 なつみ
田口 徹	西村 周太	(株) 商船三井	上井 博明	終身会員
山田 忠相	山友汽船 (株)	山口 智彦	百合野 剛	田島 孝一
元田 啓一	望月 正信	田村 孝夫	平木 恵介	
大竹 健士	松林 祐馬	枝次 真治	酒井 勇樹	
安原 尚	川渕 仁	中塚 達也	濱松 直也	
三村 宜寛	大坪 鴻介	朝日 健二	佐々木 翔輝	
宮澤 優太	仁井岡 友康	綱島 毅	漁野 智洋	
薬師寺 尚人	永井 達朗	滝浦 文隆	廣村 匡俊	
吉岡 祐希	梶原 拓海	竹原 敏宏	濱田 祐司	
	近藤 拓斗	栗原 誠	松下 薫	
	今城 冬哉	橋口 靖生	河本 優	
	工藤 善己	萩原 栄二	中尾 拓弥	
	竹嶋 琳香	新田 真一	阿部 誠	
	田中 咲楽	山本 真丈	梅田 尚宏	
	平野 有輝	鈴木 直也	染矢 真行	
	進藤 弘和	寺西 尚平	田川 寛大	
	藤原 侑大	迫間 利紀人	渡邊 真史	
	齋藤 華月	山下 育孝	早柏 隆太	
	宮川 拳輔	沖原 邦彦	溝渕 真太郎	
		片渕 敏之	杉野 智	
		山岡 宣之	宇都宮 直人	

2025 年度新入学入会者名簿

2025 年 7 月 31 日現在

富山	山田 隆之佑	山田 輝	前田 花穂	藤井 佑哉	齊藤 紫音
東野 晴	鳥羽	山中 洸太郎	正岡 明久	藤井 遼太	佐竹 颯祐
池照 元	浅田 蓮斗	山本 隆太郎	宮城 康士朗	藤谷 咲笑	佐藤 優月
今井 みのり	井上 大義	米田 藍子	三宅 悠太	藤本 彪雅	新吉屋 元太
浦島 芽生	大石 千乃	広島	宮田 怜空	古野 泰知	相馬 廣志朗
奥田 圭	大場 和音	伊藤 桜真	村上 彰文	堀 魁士	高橋 啓
籠瀬 滯	奥村 凱	稲山 慎	横路 悠	正木 智也	高山 七夢
金山 惇郎	粕谷 育武	井上 惺成	吉村 綾野	松岡 大晴	田口 元多
釘宮 孝明	木地 由香理	上原 結空	吉本 武弘	宮 龍輝	竹川 怜那
國田 葉月	小木曾 心咲	大塚 聡太郎	弓削	村上 寛大	田村 功志
小越 然	小林 謙真	大貫 健太郎	青木 慎一郎	森 悠真	中村 光樹
小島 吉平	坂上 弘薫	尾身 伊織	青山 晏治	森本 快晴	野原 絆豊
酒井 愛凜	下村 透大	垣 やす子	有森 公映	柳田 倅弥	橋本 璃久
菅原 優希	鈴木 理市	梶川 航	飯山 裕樹	山本 ソフィア	秦 崇真
漁 笑里	高田 悠太	川俣 貫太	石井 梓	吉賀 大晟	百武 真之介
竹内 映月	竹本 壮佑	川本 涼生	歌野 蓬桃香	渡邊 蕾斗	廣田 潤
竹島 粹瑠	辻 晴功	小塚 颯人	岡田 陽士朗	田中 虹夢	藤田 夢那
塚原 大地	中尾 友哉	坂口 良太郎	岡野 太一	大島	増田 勇斗
出本 一	西村 心奏	佐藤 泰喜	越智 海翔	池田 瑛人	松井 大翼
西尾 渉	野崎 陽一郎	佐野 紘	越智 夢叶	池田 琉希	三日市 楓佳
西山 尚央	濱口 蒼月	澤田 茅弥	鐘ヶ江 隆信	石村 奏太	免出 信暖
平野 樹	東 信哉	杉浦 圭悟	黒田 忠誠	伊藤 亜紋	
福田 雅祈	平野 聖也	園田 総司	小林 拓真	井上 隼翔	
ポポフ デウイド	廣田 元	高橋 杏介	佐藤 舟太郎	井本 瑛斗	
真崎 秋平	福田 健人	田中 夏希	嶋倉 孝英	梅田 凌太郎	
松岡 航	前田 啓汰	谷重 冴珂	高橋 虎太郎	大峯 悠	
村上 結麻	松村 春輝	谷本 佑太	高橋 巧	釜井 咲音	
目代 迅	松本 知士	津田 悠翔	田中 鈴潤	川村 一颯	
森 陽翔	村川 知優	西川 颯良	谷 友虎	河村 倫之進	
森谷 太郎	村田 美侑	西本 美幸	近田 陽愛	北畠 璃空	
山田 愛己	森 七海	濱崎 珊汰	原口 空武	桑原 颯大	



将来の夢 職業選択

誰か日本列島の上に日傘をかけてくれないかなと思う毎日ですが、皆様益々ご清祥の事と存じます。さて、大仰な掲題ですが、皆さんの将来の夢は？この場合の夢とは人として生活してゆくための仕事の事です。商船系の学校で学んだ諸君が目指すのは“船乗り”？ 船乗り、結構カッコいいですよね、筆者もそのカッコいい職業に憧れた一人です。ただ本号から寄稿をお願いしている全船協理事・玉川氏が語っているように、船員（特に外航船員）の就職率は時の経済事情、政治事情等世情に左右・影響を受けます。勿論時の職業全般が経済情勢の下にあるとは思いますが、僅か1学年違いで求人に差が出る職業は珍しいのではないのでしょうか？ それでは運悪く“船乗り”の夢を叶えられなかった仲間はどのようなのでしょうか？

前述の玉川さんは何と百貨店→テレビ局だそうです。

（詳しくは玉川さんの投稿記事をご参考ください）先日筆者は「海と緑の技術研究舎」というベンチャー企業の共同経営者平賀和徳さんとその仲間の方々に会いました。平賀さんは2015年大島商船を卒業後東京海洋大学に編入、学生時代は野球部だそうです、大学卒業後は船舶管理会社に2年間ほど在籍したのち、大学時代の仲間とベンチャー企業を立上げ現在に至っているそうです。設立時の本業は船体の海洋生物付着防止省エネ装置開発などですが、彼がユニークなのはその会社で、海藻由来のペットヘルスケア（餌？）を開発販売している事です。ペットフードが彼の思い付きなのか閃きなのかは分かりませんが、お化けフォーク並みの変化球で社会に挑戦していると感じました。高等専門学校の卒業生の数は毎年1万人前後、商船系は2000年頃で約600、現在は200人程度で全くの少数派、それでも卒業後再開したり知り合ったりした仲間は多くとにかく多彩でした。筆者の同級生にも医者、地方政治家、衣類製造工場のオーナー等、なにそれ？という仕事をこなしている方がいます。商船高専の水で育った我々は強かなのです。「意思のある所に道は開ける（リンカーン）」です。（徳嶋・記）

表紙写真 郵船クルーズ株式会社「飛鳥Ⅲ」

本船主要目 全長：230m 全幅：29.8m 喫水：6.7m 総トン数：52,265トン 乗客定員：約740名
乗組員数：約470名 客室数：385室（全室バルコニー付き） 船籍港：横浜・日本

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。連日酷暑が続いておりますが、皆様の体調は大丈夫でしょうか。事務局が新体制となって初めての会報「全船協」第159号の発行となりますが、いかがでしたか。会報発送までに至る諸々の工程をクリアしなければならない大変さを実感したところです。これから新体制の色を少しずつ出せるようにしていきたいと思います。（にしやま_記）

全船協 会報 159号 夏季号

2025年8月発行

◇発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人：徳嶋 明宏
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: honbu@zensenkyo.com URL: <https://www.zensenkyo.com>

神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520

E-mail: kobe@zensenkyo.com



飛鳥Ⅱ 飛鳥Ⅲ

幸を編む 至福の船旅



“最幸”の出会い、
クルーズ客船で一緒に働く“仲間”を募集中



郵船クルーズ株式会社

郵船クルーズ(株)は「飛鳥Ⅱ」「飛鳥Ⅲ」を運航している会社です。

〒220-8147 横浜市西区みなとみらい 2-2-1
横浜ランドマークタワー

採用情報はこちら



<https://jobs.asukacruise.co.jp/>

海事業界向けデータベースのネット公開サービス

「Maritime-iSAP」のご提供

詳しくはこちら <https://www.isap.co.jp/opac.html>



株式会社ISAP (アイサップ)

東京都品川区大井 1-23-4 OValビル4F

電話: 03-5709-7525 FAX: 03-5709-7527



株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋船佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: cotrasystem@nifty.com



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 橋本 孝亮

〒650-0034

神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階

電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157

E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

関門水先区水先人会

会長 中野 精一

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークウヅ横浜・寿館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916

E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

http : // www.meihansenpaku.co.jp



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル2階 (fabbil内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290



伊勢三河湾水先区水先人会

“安全と信頼を提供”

会長 伊東 佳宏

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルディング 17階

電話:(052)304-8311 FAX:(052)304-8312

海事関係の皆様へ



リニューアルオープン!

ご宿泊からご宴会・会議等各種会合まで。
海事関係の皆様から船乗り達が集う憩いの場所として親しまれております。

海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば
特別価格にてご利用いただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京

〒104-0053 東京都中央区南洲 4-7-28 TEL 03-5560-2525 mail : banquet@hotel-mariners.co.jp

海事六法 2025年版

2025年1月末日現在の海事関係法令および条約195件を、海運／船舶／安全／船員／職員・審判／海上交通／海洋汚染／保安・その他／条約の9項目に分類して掲載。「海技試験」に必要な法令をすべて収録するとともに、口述試験場への持ち込みが認められている。また、海事代理士試験の規程法令科目にも対応した収録内容とし、実務にも役立つように配慮。

国土交通省海事局 監修

A5判 2240頁 定価5,280円(税込)

海事六法 2025年版

国土交通省海事局 監修

海文堂

山縣記念財団
ライブラリー4



船が育んだ江戸

物の運びがもたらす
暮らしと文化

東京海洋大学附属図書館にて開催された企画展示「船が育んだ江戸～百万都市・江戸を築いた水運～」の図録を大幅に加筆修正し、＜物の運びがもたらす暮らしと文化＞について、人々の暮らしには船が極めて重要であったことを、「海」、「川」、「船」、「恵み」の4つの視点からまとめている。貴重な文献をカラーにて収録し、資料的価値も高い一冊。

東京海洋大学「船が育んだ江戸」

編集委員会 編

B5判 184頁 定価5,500円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

清水水先区水先人会

会長 鈴木 泰治

副会長 八木 庸彰

〒424-0922 静岡県清水区日の出町10番80号
清水マリナーミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

社会の重要インフラや物流事業をサポートし、持続可能な未来の創造に貢献する
Contributing to a sustainable future



日本フィールド&マリン
エンジニアリング株式会社
Japan Field & Marine Engineering



電気・機械・冷熱・計装事業を中心とした技術サービスを提供しています。

本社	神奈川県横浜市西区岡野二丁目8番13号	神戸事業所	兵庫県神戸市兵庫区西出町一丁目2番3号
TEL:	045-290-6085	TEL:	078-651-2727
横浜事業所	神奈川県横浜市神奈川区守屋町一丁目2番2号	神戸T・V・Zビル	兵庫県神戸市中央区元町六丁目1番8号東館16階
TEL:	045-461-6971	TEL:	050-3662-6158
計装事業本部	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央三丁目4番36号	長崎事業所	長崎県長崎市井ノ口1番11号
TEL:	050-3662-6153	TEL:	050-3662-6169

■ センボスの宿・健康診断 ■



一般財団法人
船員保険会

会長 岡部 修

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <https://www.sempos.or.jp>

一般港湾運送事業 通関業
港湾荷役事業 貨物自動車運送事業
海上運送事業 倉庫業

東海海運株式会社

代表取締役社長 鶴岡 純一

本 社	東京都港区芝浦2丁目2番18号	☎東京	(3451) 9311代
千 葉 支 店	千葉市中央区今井1丁目19番25号	☎千葉	(261) 4431代
T A C S	東京都江東区青海4丁目4番18号	☎東京	(3528) 3270代
船 橋 営 業 所	船橋市潮見町4番2号	☎船橋	(437) 7871代
横 濱 営 業 所	横浜市中区南本牧3-8	☎横浜	(415) 0271代
ホームページ	https://tohkaikaiun.com		

宿泊設備 (海員会館) のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



1階 レストラン
Ocean

ナビオス横浜



3階 バーラウンジ
Seamen's Club



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL: (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL: (044) 233-5896
エスカル横浜 TEL: (045) 681-2141
エスカル神戸 TEL: (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会 (045) 319-4506

ホームページ <https://www.jswa.or.jp>